
令和2年 第1回 高千穂町議会定例会会議録(第2日)

令和2年3月6日(金曜日)

議事日程(第2号)

令和2年3月6日 午前10時00分開議

- 日程第1 報告第1号 専決処分書の報告について(南平団地)
- 日程第2 議案第5号 令和元年度高千穂町一般会計補正予算(第4号)
- 日程第3 議案第6号 令和元年度高千穂町国民健康保険特別会計補正予算(第4号)
- 日程第4 議案第7号 令和元年度高千穂町簡易水道事業特別会計補正予算(第2号)
- 日程第5 議案第8号 令和元年度高千穂町下水道事業特別会計補正予算(第4号)
- 日程第6 議案第9号 令和元年度高千穂町介護保険特別会計補正予算(第4号)
- 日程第7 議案第10号 令和元年度高千穂町後期高齢者医療特別会計補正予算(第3号)
- 日程第8 議案第11号 令和元年度高千穂町国民健康保険病院事業会計補正予算(第2号)
- 日程第9 議案第1号 地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係
条例の整備に関する条例の制定について
- 日程第10 議案第2号 高千穂町附属機関設置条例の制定について
- 日程第11 議案第3号 高千穂町国民健康保険税条例の一部改正について
- 日程第12 議案第4号 高千穂町国民健康保険条例の一部改正について
- 日程第13 議案第12号 令和2年度高千穂町一般会計予算
- 日程第14 議案第13号 令和2年度高千穂町国民健康保険特別会計予算
- 日程第15 議案第14号 令和2年度高千穂町簡易水道事業特別会計予算
- 日程第16 議案第15号 令和2年度高千穂町下水道事業特別会計予算
- 日程第17 議案第16号 令和2年度西臼杵地域介護認定審査会特別会計予算
- 日程第18 議案第17号 令和2年度高千穂町介護保険特別会計予算
- 日程第19 議案第18号 令和2年度高千穂町後期高齢者医療特別会計予算
- 日程第20 議案第19号 令和2年度高千穂町国民健康保険病院事業会計予算
- 日程第21 議案第20号 令和2年度高千穂町水道事業会計予算
- 日程第22 議案第22号 延岡市との定住自立圏形成協定の一部変更について

本日の会議に付した事件

- 日程第1 報告第1号 専決処分書の報告について(南平団地)

- 日程第2 議案第5号 令和元年度高千穂町一般会計補正予算（第4号）
- 日程第3 議案第6号 令和元年度高千穂町国民健康保険特別会計補正予算（第4号）
- 日程第4 議案第7号 令和元年度高千穂町簡易水道事業特別会計補正予算（第2号）
- 日程第5 議案第8号 令和元年度高千穂町下水道事業特別会計補正予算（第4号）
- 日程第6 議案第9号 令和元年度高千穂町介護保険特別会計補正予算（第4号）
- 日程第7 議案第10号 令和元年度高千穂町後期高齢者医療特別会計補正予算（第3号）
- 日程第8 議案第11号 令和元年度高千穂町国民健康保険病院事業会計補正予算（第2号）
- 日程第9 議案第1号 地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係
条例の整備に関する条例の制定について
- 日程第10 議案第2号 高千穂町附属機関設置条例の制定について
- 日程第11 議案第3号 高千穂町国民健康保険税条例の一部改正について
- 日程第12 議案第4号 高千穂町国民健康保険条例の一部改正について
- 日程第13 議案第12号 令和2年度高千穂町一般会計予算
- 日程第14 議案第13号 令和2年度高千穂町国民健康保険特別会計予算
- 日程第15 議案第14号 令和2年度高千穂町簡易水道事業特別会計予算
- 日程第16 議案第15号 令和2年度高千穂町下水道事業特別会計予算
- 日程第17 議案第16号 令和2年度西臼杵地域介護認定審査会特別会計予算
- 日程第18 議案第17号 令和2年度高千穂町介護保険特別会計予算
- 日程第19 議案第18号 令和2年度高千穂町後期高齢者医療特別会計予算
- 日程第20 議案第19号 令和2年度高千穂町国民健康保険病院事業会計予算
- 日程第21 議案第20号 令和2年度高千穂町水道事業会計予算
- 日程第22 議案第22号 延岡市との定住自立圏形成協定の一部変更について

出席議員（13名）

- | | |
|-------------|-------------|
| 1番 佐藤さつき議員 | 2番 板倉 哲男議員 |
| 3番 磯貝 助夫議員 | 5番 安在 昭則議員 |
| 6番 本願 和茂議員 | 7番 中島 早苗議員 |
| 8番 馬原 英治議員 | 9番 佐藤 久生議員 |
| 10番 坂本 弘明議員 | 11番 工藤 博志議員 |
| 12番 富高健一郎議員 | 13番 富高 友子議員 |
| 14番 佐藤 定信議員 | |
-

欠席議員（なし）

職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

局長 甲斐 順生

書記 佐藤健次郎

説明のため出席した者の職氏名

町長	……………	甲斐 宗之	副町長	……………	藤本 昭人
教育長	……………	濱田 琢一	総務課長	……………	石瀨 敦司
財政課長	……………	佐藤 英次	税務課長	……………	須藤 浩文
町民生活課長	……………	興梠 晶彦	企画観光課長	……………	山下 正弘
福祉保険課長	……………	有藤 寿満			
農林振興課長兼農業委員会事務局長	……………				甲斐 徹
農地整備課長	……………	佐藤 峰史	建設課長	……………	佐藤 雄二
会計管理者	……………	興梠 貴俊	病院事務長	……………	戸高 雄司
保健福祉総合センター事務長	……………				林 謙一
上下水道課長	……………	江藤 良一			
教育委員会次長兼教育総務課長	……………				河内 晴彦
監査委員	……………	中尾 清美			

午前10時00分開議

○事務局長（甲斐 順生事務局長） 皆様、おはようございます。御起立お願いいたします。
一同、礼。

〔起立・礼〕

○事務局長（甲斐 順生事務局長） 御着席ください。

○議長（工藤 博志議員） これより、本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

日程第1. 報告第1号

日程第2. 議案第5号

日程第3. 議案第61号

日程第4. 議案第7号

日程第5. 議案第8号

日程第6. 報告第9号

日程第7. 議案第10号

日程第8. 議案第11号

○議長（工藤 博志議員） 初めに、日程第1、報告第1号から、日程第8、議案第11号までの報告1件、補正予算議案7件、計8件を一括議題として質疑を行います。なお、平成2年度施政方針に対する質疑も行います。また、質疑をされる方は、議会申し合わせ事項を遵守していただき、さらに議案番号並びに答弁者を指名して質疑願います。

議員、執行部双方に申し上げます。質問、答弁につきましては、マイクの位置を確認して発言されるようお願いいたします。質疑、ありませんか。富高友子議員。

○議員（13番 富高 友子議員） 13番、富高友子です。今回、新型コロナウイルスがはやって、大変皆さん苦慮されていると思うんですが、乗り切らなくちゃいけないと思っているところなんです。

町長の施政方針の中から、3点ほど質疑をさせていただきたいと思います。

新型コロナウイルス感染予防施策により、小中学校は3月2日より14日間臨時休校となっております。急な国からの要請で、町とか教育委員会は大変対策に苦慮されていることだと思っております。そのことで教育長のほうにお尋ねしたいんですが、今回、町内児童クラブのほうはあっているようですが、児童クラブの状況と苦情とか要望等問題点はないかお聞きをしたいと思っております。

○議長（工藤 博志議員） 教育長。

○教育長（濱田 琢一教育長） 御質問にお答えいたします。

児童クラブにつきましては、高千穂、押方、岩戸、田原そして上野で開設しております。現在、高千穂のほうでは27名ほど、押方が2名、岩戸が14名、田原が2名、旭ヶ丘が13名、合計58名の子供たちがそこに通っている状況でございます。

予定していた数よりも少ないというふうに考えております。これは、保護者の皆様が休んで、そして子供の対応に当たっていること、それからお兄さん、お姉さんがいる場合には、その人達が見ているという状況があるんじゃないかというふうに思っています。

また、保護者からの問い合わせは全くございませんので、順調に進んでいるのではないかとこのように思っています。

それから、それに対応する先生方ですが、現在学校が休みをしておりますので、現在学校で働いておられる支援員の皆さんとかがそれに対応してくださっていますので、対応する先生方の数がふえているという状況でございます。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 富高友子議員。

○議員（13番 富高 友子議員） 通常より少ないということで安心をしたんですが、支援員の不足等も考えたんですけど、今おっしゃられたように学校のほうからも助けていただけるということでありがたいなと思っております。

私の周りのほう聞いてみますと、やはり共稼ぎの方がやっぱり休まれているということをよく聞いております。それで、やはり児童クラブというのは、いつも午後だったんですが、朝から夜のフルタイムで行っておりますので、今後どういう状況になるかわかりませんが、支援対策をしっかりしていただきたいなと思っております。よろしくをお願いします。

次に、給食についてなんですけれども、月2回の給食センターへの注文と聞いております、栄養士さんのほうが。その中でも半分は注文されていると思うんですが、それで注文した後の、たくさんの方の人数の注文ですから、やっぱり食品ロスが出ると思います。その食品ロスの状況とその対策をどうされたかお聞きしたいと思います。

○議長（工藤 博志議員） 教育長。

○教育長（濱田 琢一教育長） 御質問にお答えします。

給食の関係でございますが、金曜日に臨時休校が決定されましたので、それ以降キャンセルという形になっております。ただ、月曜日の分がキャンセルが間に合わなかったという学校もあるようです。それに伴いまして、食品ロスについては、その部分は職員、学校の先生方でその食品を買うというんですか、そしてロスがないようにしたという学校もございます。ただ牛乳等いろいろ食品ロスが出たところもありますけども、一応金曜日でしたので、キャンセルが間に合ったということでそれほど大きなロスはなかったというふうに伺っております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 富高友子議員。

○議員（13番 富高 友子議員） テレビを見ていましたら、野菜とか大規模の学校では、その場で即売会をされていたようですので、そこまでなかったということで安心をしたところでございます。

それと、調理員のことになりますけども、休校中の対策ですね、14日間休みになります。それとその後には春休みがきます。そうなれば1カ月近く休まなくちゃいけないんですが、今度、会計年度任用職員制度が採用されますけども、その中において、やはり1カ月近く休みになりますと収入にも影響してきますが、その対策はどうされますか、教育長。

○議長（工藤 博志議員） 教育長。

○教育長（濱田 琢一教育長） 御質問にお答えいたします。

まず、給食調理員の皆さんですけども、先ほど言いましたように児童クラブのほうにも加勢を

いただいているという状況で、そしてお金が入れるような形にしたいというふうに考えております。

それから、もう1点、これはこちらから休校にしたわけですから、向こうは働きたいんだけど働くことができないという状況です、何らかの処置はしなくちゃいけないというふうには考えております。

現在、国のほうがいろんな財政措置をやっておりますので、それに伴ってこれも出てくるのではないかなというふうに思っています。例えば、財政措置につきまして言いますと、児童クラブこれは1日500円なんです、これにつきましても財政措置で10分の10国が補填するというふうな法律も出たようでございますので、そういった意味で、今後そういった給食の方々についても措置が出てくるのではないかなというふうに思っているところです。

○議長（工藤 博志議員） 富高友子議員。

○議員（13番 富高 友子議員） 保育園のほうは、調理員さんたちフルタイムというお仕事をしておりますので、安心なんです、その国の対策とか今考えておられますが、早急にできるかどうかわかりませんが、そういうのも交えながら、やはり調理員さんたちの報酬の確保もしていただきたいなと思っております。

次に、町立病院について町長にお尋ねします。補足があれば事務長にお願いをしたいと思えます。

行政報告にて、町長より大変うれしいニュースとあってそういう蘇陽～五ヶ瀬間の事業報告をされました。私もそれもうれしいんですが、それよりも私はうれしいニュースとして町立病院に常勤医師がふえることを聞いたことが一番うれしかったと、うれしいというかよかったと思っております。清崎先生以来、腎臓内科の透析の先生がみえられるということは十数年ぶりではないかと思っております。清崎先生以来、腎臓内科の透析の先生がみえられるということは十数年ぶりではないかと思っております。人口透析の管理についても診療されるという先生が勤務していただけることが、私たちは本当待ちに待ったいいニュースじゃないかなと思っております。病院が繁栄できるというのはいいことありますけれども、町民も安心して喜ばれているんじゃないかなと、これをお聞きになったら、思っておるところです。

これもひとえに町長はじめ病院、議会の代表の方々が毎年毎年努力をされ、行っておられます。それが実ったものだ感謝をしておるところですが、評価をしたいと思っております。

前から透析患者は常勤医師がいなければ入院はできないということもお聞きして、収入減にもなったところだとは思いますが、今度から本町でも入院ができ、患者も家族も安心して生活ができるようになるということで、ありがたいと思っております。県派遣医師にも3名から5名となり、9名体制から12名体制になる報告をありがたく受けたところでございます。

議案の説明のときに、少し事務長が触れられましたが、熊大からの宿直医師を減らして、経費

削減をすることも説明をされました。その中でどのようにされるのか、町病院の先生、今度ふえますので、宿直のほうの体制もあるのかと思いますが、そのことについてわかるように説明を事務長にお願いしたいんですが。

○議長（工藤 博志議員） 病院事務長。

○病院事務長（戸高 雄司事務長） 富高議員の質問にお答えいたします。

現在、常勤医師が9名ですが、そのうち宿直、泊りをされる先生につきましては、7名ということで、院長、副院長をのけた7名ということで回しております。しかしながら7名では、毎日の夜の当直等は非常に困難なため、現在は熊本大学の消化器外科から毎週火曜日の夜と金曜日の夜の宿直をお願いしているところです。

また、土曜日の夜と日曜日の日直につきましては、別に各月に第1週から第4週までは、個人の先生をお願いしていますので、来年度もそれは継続していきたいと思っております。

新年度につきましては、先ほどありましたように、常勤医師が12名となりますので、そのうち院長、副院長を除く10名で回せるかと思っております。10名にふえたということで、来年度からは火曜日の夜から入ってこられる当直医を全てキャンセルをしたところでありまして。

また、今年度につきましては、週の中に入ってきます祝日等のときも熊大の先生に依頼をしていたところですが、常勤医師がふえるということで、来年度からはそういったのを全て当病院の常勤医師で回していきたいと考えております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 富高友子議員。

○議員（13番 富高 友子議員） 宿直医師を減らされたことは大変経費削減になるんじゃないかと思っております。ありがたいことだと思っております。

新しく来られた方たちも交えて宿直ということで聞いておきたいと思えます。

それと、病院経営は今後とも大変厳しい状況であると思えますが、今医師の評判、ときどき私もお聞きするんですけど、評判のいい先生方がいらっしゃるようでございます。体制も整えて、外来、入院患者もふえることもあるかと思えますが、入院ベッド数も満床だと聞いております。それで、入院ベッド数も足りなくなる状況が予想されるとして、現在西臼杵地域公立病院部会検討グループ会の会議を西臼杵3町において協議を進められていることをお聞きしておりますが、本町の病院を中核病院として、2町の病院の療養病棟施設等に向けた協議を早急に3町で進めていただきたいのですが、町長の考えはどうでしょうか。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） 富高議員の御質問にお答えいたします。

まさに先ほどからお話がありますとおり、常勤医師確保が、常勤医師がふえるということが実現

ができるということは、今後の西臼杵3町の病院経営のあり方を議論していく中で、高千穂町立病院が中核病院として果たす役割がしっかり果たせる、その体制をつくる足がかりができているというふうに思っております。

早速、今月中に今3町での病院再編に向けた、コンサルに委託している部分の今年度中の成果の報告を受けることになっております。それを受けまして、今後どのように進めていくかということについてのスケジュール等につきましても、その中で承認を得て、確実に前に進めていくということで考えております。3町の病院がそれぞれに持続可能な形で地域の医療を担うためにあり続けるにはどうすればいいかということをしつかりと議論して、一番いい形を模索していきたいというふうに考えております。引き続き、しっかりと取り組んでまいりたいと思います。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 富高友子議員。

○議員（13番 富高 友子議員） そのようにお願いしたいと思います。私たちは、町民は、都会のようにたくさん病院も医者もおらないところがございますので、病院も医師も選ぶことはできません、やはり町立病院1本になると思いますが、ぜひ信頼できる先生方がどんどんふえて常勤医師になられることを願って、安心して私たち町民に医療の提供が受けられる病院になることを願いたいと思います。ぜひ今後とも検討グループ委員会の会議を早急に進めていただいて、いい結果が出るようにお願いして質疑を終わりたいと思います。

○議長（工藤 博志議員） ほかに質疑はありませんか。佐藤定信議員。

○議員（14番 佐藤 定信議員） 町長の施政方針について1点お伺いをしたいと思います。

中学校の統廃合の問題についてであります。当初、高千穂に一本化するということで進められていたわけでありまして、当然、田原、上野それぞれ地元において説明会もあったわけですが、結果、上野中においては見送ると、田原中においては1年おくらせることも視野に入れているという報告だったと思うわけですが、そうなった経緯といますか根拠といますか、予定どおり、発言では、令和3年度までだったと言われたと思うんですが、そのとおりいかなかったということはどういう根拠だったのか、まずその点を1点お伺いしたいと思います。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） 教育委員会の主導で座談会を開催をさせていただいたわけでありまして、上野、田原それぞれ3回座談会を開催させていただきました。その中で、まず町としての大方の目標というか、何もなしに議論を進めるのもなかなかどうかなというところがありまして、令和3年の3月をもって統合したいというお話をしたところでもありますけれども、保護者あるいは地域の皆さんからは、ちょっと唐突じゃないかというような感覚も持たれた皆さんが多かったというふうに伺っております。

それ何かしらの目標を持たなければ議論がうまく進んでいかないんじゃないかという思いがあったわけでありませけれども、そういった御意見もあったということ。そして、上野については、小学校、中学校が一緒にある、今がこの形になっているわけでありまして、それが非常にうまくいっているんだというようなところ、これを壊す必要がないということもあったのかなと思います。上野は上野で、この形がベストだと思っているんだという意見が多かったということ、そして制服の問題であったり、あとは通学の足をどうするんだということも心配ということが多かったと思います。

そういったこともあって、なかなか上野については、令和3年3月ということについては、反対という意見が多数を占めたということで、その期限での統廃合については、一旦話をとめましようということになったわけです。

しかし、お話をしましたとおり、将来的には人数が減ってきたときには、統廃合やむなしというお考えのある方が多いということも念頭において、今後さらに協議を進めていきたいというふうに思っているところです。

田原につきましても、統廃合についてのそれ自体については、もう絶対だめだという方はごく少数であったというふうに思います。あとは制服の問題であったり、あるいはスクールバス等の足の確保、そのあたりが一番の課題になっていると思いますので、そういった心配ごとを一つずつ潰していく、町としてのそれに対する対応策をどう示していけるか、ここらあたりをしっかりとって、次の協議に臨みながら、合意を得たいというふうに考えているところでございます。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 佐藤定信議員。

○議員（14番 佐藤 定信議員） 私も2回説明会ございましたが、出席をして聞いたわけですが、今町長言われたとおり、田原の場合ですけど、絶対に反対という方は私はおられなかったと。ただ当然不安がつきまとうと思うわけですが、保護者からは通学の問題とか制服の問題、あるいは子供の対応の問題等が、不安が出たとは、もう保護者からありました。

また、住民からは、言われたとおり、もう少し議論の場がほしいという意見も少数でございましたが、あったのは事実だと思っております。しかし、大勢としては、やむを得ないやるべきだということだったと理解しております。

そこで、いわゆる県の、最初これは話が出たときに、高千穂高校と併設ということで、できれば上野、田原一緒に条件だということもあったかなと理解しておりますけど、県の対応というのは、今でもやっぱり両校上野、田原一緒じゃないとという方向に進められているのか、その辺の検討の協議はどうなっているのか、ちょっとお伺いしたい。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） こちらにつきましては、当初は今までのいろんなところの事例を見てみますと、町内の中学校を一本化し、そして高校と連携型の中高一貫校というところが、今までの事例としてはほとんどだということであります。よって、高千穂町についても、中学校をまず一本化するということが条件というようなことでありましたが、先日も申し上げましたとおり、今は高千穂中学校に一本化が、仮に例えばですけれども、田原は一本化して上野は別であるといったような状況の中でも、高千穂高校との空き教室を利用した連携型の中高一貫校ができないでしょうかということ、今県に対して投げかけているといった、そういった状況でございまして、今は回答を待つといった、そういった状況であります。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 佐藤定信議員。

○議員（14番 佐藤 定信議員） ちょっと上野の状況は、私もちょっとわかりませんが、この今のコロナウイルスの関係で、今後、説明会がどうなるかちょっと見通せない面もございませうけど、やはり言われましたとおり、十分に説明をすれば、私は保護者も地域の人も納得していただけたらと思っております。したがって、そういう今後の予定どおり進めてもらいたいと思うわけでございます。

今、田原小学校の6年生が8名ということでございますが、このうち田原中に行く子供は5名だそうなんです。3名はほかの、2名は高千穂中と決めていると。その少ない中にやっぱりこういう状況は現実に出てきているわけです。将来的にもこれは子供がふえるという見込みは、まず無理かなと思いますし、これは幾ら先延ばしても結論は、私同じじゃないかと。何をするにしても100%の賛成ということは、私はないと思っております。しかし少数意見をまた無視することもできない、それは十分な……、町長が言われましたように説明をして理解をしていただくというのが、一番大事なことじゃないかと思っております。当初、令和3年ということも伝えてありますので、これは私は予定どおり、できれば進めていただきたいと思いますと思っておりますが、その点を再度伺いたします。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） 上野に対しましては、一旦、令和3年3月での廃合については見送りたいというお話をしておりますので、そちらについてはなかなか厳しいのかなというふうに思います。

ただ、田原につきましては、通学、足の問題、そして制服の問題、あとは一つは部活動についてのチーム編成がちゃんとできている、例えばバレーボールチームであるとか、今のメンバーで最後まで戦わせたいんだというような思いもあるというふうに聞いております。例えば、高千穂中学校と一緒にしたらレギュラーではなくなるんじゃないかとか、そういった心配ごとも実は

あるようであります。

そういったところについては、中体連のほうの中で、旧田原中のチームで出ることも容認していただけないかと、そういうことも働きかけもしながら、不安材料を一つずつ消していくということで、こちらからの最善の策を示して再度、コロナウイルスの問題もありますけども、こういった問題が落ち着いた後に、できるだけまた早い時期に田原地区の皆さんとPTA、または地域の皆さんと協議を進めまして、その判断を、今のところ5月中までに行いたいというふうに思います。もしも統廃合するに当たっては、やはり閉校、そういった準備というのも実際問題としては、保護者の皆様、また学校、地域の皆さんも準備がありますので、その期間を十分に考慮する必要があるというふうに思いますので、判断については、一旦どうするかということについては、できるだけ早い時期に結論を出したいということで、こちらも最初提示した時期に、できることであれば早く統合ということについての結論を出したいという気持ちをもって、協議を続けてまいりたいというふうに思います。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） ほかに質疑はありませんか。中島早苗議員。

○議員（7番 中島 早苗議員） 議席番号7番、中島早苗です。2点ほど福祉保険課長にお伺いします。

議案第5号一般会計補正予算（第4号）ページ数が45ページの下段のところの産婦人科運営補助金であります。30万2,000円の補正が上がっていますが、内容を教えていただけますでしょうか。

○議長（工藤 博志議員） 福祉保険課長。

○福祉保険課長（有藤 寿満課長） 福祉保険課長。質問にお答えいたします。

産婦人科診療所につきましては、毎月診療していただいておりますけれども、1年間通して基本額を超えた分については、町のほうで運営補助金を支出するというようになっておりまして、当初予算で990万円ほど予定をしておりましたけれども、12月いっぱい営業していただいた時点で少し足りないんじゃないかということで、今回30万2,000円増額補正をさせていただきました。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 中島早苗議員。

○議員（7番 中島 早苗議員） 産婦人科の補助金は、年々増加傾向にあるように思います。運営方針等について、さまざま協議をされているとは思いますが、協議内容を教えていただけないでしょうか。

○議長（工藤 博志議員） 福祉保険課長。

○福祉保険課長（有藤 寿満課長） 福祉保険課長。ただいまいろいろ協議をやっているところですが、その協議の材料として、町民に対してアンケート調査を実施いたしました。このアンケート調査に基づいて、今、病院といろいろ協議をやっているところですが、まずは西臼杵3町に病院のPRをするためのチラシを作成して、配布する予定にしております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 中島早苗議員。

○議員（7番 中島 早苗議員） アンケート調査をされたということでもありますけれども、その中に町民の受診される方の意見等で、ちょっと詳しく、例えばとても助かっているとか、そういう生の声がありましたら、ぜひ教えてください。

○議長（工藤 博志議員） 福祉保険課長。

○福祉保険課長（有藤 寿満課長） 福祉保険課長。生の声といたしましては、私たちは足がないので延岡、熊本まで行くのが難しいので、高千穂町内にあって、非常にありがたいということ、あるいは妊婦の方が延岡まで月一とか健診に行く必要がないから安心だということ、あるいは高校生とか学生さんが学校休まずに受診できるとかというような声をいただいております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 中島早苗議員。

○議員（7番 中島 早苗議員） 本当によかったなというふうに思います。皆さんがそんなふうには、本当に産婦人科病院を受診されているということをお聞きするんです。実は私、そういうすごく助かっているという若いお母さんの声もお聞きはするんですけれども、ちょっと高齢の方なんですけれども、受診したときに、ちょっと対応が冷たくて、もう二度と行くのよそうかなと思ったというような話もお聞きしましたので、その辺の部分も、一生懸命やっていたらいいというのとはわかっているんですけれども、受けとめていただくということも知っていただいて、置いていただきたいと思っております。

産婦人科、本当に高千穂にとって大切な病院であります。本当に存続の方向で、しっかり対策等協議していただきたいと思っております。

最後に、令和元年度の受診者数がわかりましたら、参考までに教えてください。

○議長（工藤 博志議員） 福祉保険課長。

○福祉保険課長（有藤 寿満課長） 福祉保険課長。申しわけありません。資料を手元に持ってきていないので、今の時点ではわかりません。後でまた御報告します。

○議長（工藤 博志議員） 中島早苗議員。

○議員（7番 中島 早苗議員） わかりました。以上で終わります。

○議長（工藤 博志議員） ほかに質疑はありませんか。富高健一郎議員。

○議員（12番 富高健一郎議員） ただいまの件につきまして、関連でありますけれども、産婦人科に対しまして、毎回予算あるいは決算委員会で付帯意見として、ぜひとも協議をしていただきたいと、その協議の内容というのは、先ほど月に大体140万以下を下回った場合の助成じゃったですね、最初の決まりは。ですから、その線引きですね、もっと下げんといかんじゃないかと、だから年々上がってくるわけです。受診者がやっぱり人口減もありますから減ってきているわけですが、その辺の協議はしているのか。

○議長（工藤 博志議員） 福祉保険課長。

○福祉保険課長（有藤 寿満課長） 福祉保険課長。この最低価格についての取り決めは、人件費等の費用が主なものでありまして、基本的に病院のほうからは、逆に少し上げてくれないかというお話はあっております。でも、利用者のほうが減って、町のほうも厳しいのでというお話をする中で、当初からの金額でずっと今のところはやっていただいておりますということで、病院に理解を得てやっているという状況であります。

○議長（工藤 博志議員） 富高健一郎議員。

○議員（12番 富高健一郎議員） なかなか立場としては、大変な立場だと思います。確かに郡内に産婦人科があると、それは先ほどの意見のようにいろいろと助かっている人たちもいるわけですから、やっぱりなくなってしまうとそれは大変でありますけれども、ある程度は病院としても努力してほしいと、ただ、こしこ足りませんから補助してくださいじゃなくて、そういったことも協議の中でちゃんと言うべきではないかと。これ大体27年ごろから病院と協議してくれと、1年に1回ぐらい協議しますというようなことであつたわけでありまして、それが本当にちゃんと進みよるとかなと非常に不安があるわけですから、その辺のところはどうお考えですか。

○議長（工藤 博志議員） 福祉保険課長。

○福祉保険課長（有藤 寿満課長） 福祉保険課長。現在のところ1月から2月おきぐらいには病院にお伺いして、こういうお話をさせていただいております。先生につきましても、利用者をふやすためにいろいろとアイデアをいただいているんですけど、例えば利用者のプライバシーを守るために待合室を少し分割できないかとか、呼び出すのを例えば番号とかにできないかとか、いろいろアイデアは出して検討している状況であります。先生方もスタッフの方も、大変、高千穂のほうでやることで、地域に貢献できるじゃないかという思いをお持ちで、従事していただいておりますので、今後とも私たちが一緒に考えて協力していきたいと思っております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 富高健一郎議員。

○議員（12番 富高健一郎議員） ぜひとも病院側と十分話し合いながら、ともに頑張っていきましょうというようなことも呼びかけていただきたいと思いますというふうに思います。

それから、次は、農林振興課長にお尋ねいたします。

繁殖素牛促進対策事業補助金、これ817万8,000円補正されておりますけれども、この内訳を説明していただきたいと思えます。

○議長（工藤 博志議員） 農林振興課長。

○農林振興課長（甲斐 徹課長） 富高健一郎議員の御質問にお答えいたします。

この繁殖素牛改良更新促進対策事業補助金につきましては、保留または導入した牛に対して、導入から24カ月齢に達する日まで1日100円を補助しておりましたけれども、本年度から1頭に対し3万円の補助としたところであります。

平成31年度当初予算では、もともと計上しておりました1日当たり100円の補助が24カ月に達せず、残りの日数があるもの、また5月市からの保留、導入するものについて計上するところでありましたけれども、予算額が過少に計上されておまして、予算不足になったところであります。

また、本年度は、前年度までの残日数の分もあること、またJAの決算時期に合わせて、昨年までは12月までの日数で計算していたこともありまして、今年度からは1月、3月整理分まで計上している点でも増額になったということでもあります。そのため、このような増額817万8,000円を計上したところであります。なお、この変更、移行期間ということになるために、一時的に増額となることも含んでおまして、来年度令和2年度からは、また予算的には下がる見込みであります。

以上です。

○議員（7番 中島 早苗議員） 富高健一郎議員。

○議員（12番 富高健一郎議員） 確かに説明のとおり、31年度から一律3万円となったわけですが、今までは、2歳まで1日100円ですから、大体4万2,000円あたりぐらいになるかなと、10カ月ぐらいで導入して、あとの残り1年分ですから。それは3万円になるわけですから、考え方によっては減っていかんやいかんと。でもただいま説明があったように、まだ3月からですから、5月市の分から3万円だけにして、前の分が残っちゃうわけですがね。ですから前の分、3月市からすれば、本年度の5月まではもちろんそりゃあるわけですが、ですから、一時的に3万円ぽんと払わないかんわけですから、その分は上がるのはわかりますが、今年度の予算が大体1,437万ですか、31年度当初予算が。今度ぽんと上がるということで、2,251万ぐらいになります。当初予算よりか、今度は来年度、だから令和2年度は下がるのが当たり前ですけども、2年度の予算もやっぱり1,400万ぐらいですか、組んであるのは。ですから、年間ひと市大体60頭ぐらいですか、導入が。60頭ぐらいで計算したときは、今度は逆に2年度は下がっていったらないかなというふうに思えますけれども、これ一応予算ですか

ら、どのように計算したのかなというふうに思います。その辺はわかりましたら説明を。

○議長（工藤 博志議員） 農林振興課長。

○農林振興課長（甲斐 徹課長） 先ほど説明いたしましたように、令和元年度の当初予算の分で、予定頭数が非常に少ない見込みだったものがありまして、その分が大きくふえております。令和2年度の見込みでは、対象頭数日割りで1日100円分の補助が残っている対象頭数は112頭となっております、予算的には186万円ほどを計上しておりまして、3万円の補助になる地域導入、保留につきましては、1競り当たり70頭を見込んで予算を計上しているところであります。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 富高健一郎議員。

○議員（12番 富高健一郎議員） 大体予算的なことは、大体わかりましたけれども、この予算につきましては、やっぱり高千穂市場を残していかにやいかんということで、やっぱり生産意欲を高めるために、非常にいいものだというふうに思っております。

1日100円から一律3万円になっても、これは現在の価格からすれば仕方のないことでもありますから、今後におきまして、今4,500頭ぐらいですか、これ頭数は。それを維持していかなければ、高千穂の市場はもうなくなるというようなことでもありますから、また今後におきましていろんな面で考えていただきながら、この高千穂の畜産というのを残していただきたいというふうに思っています。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） ほかに質疑ありませんか。磯貝助夫議員。

○議員（3番 磯貝 助夫議員） 議席番号3番、磯貝助夫です。町長にお尋ねします。行政報告の中で、再度確認をしたいんですけども、公衆浴場のこの問題につきまして、3月の町報に載せて、町民のほうにお知らせするというものでありましたけれども、これ間違いないでしょうか。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） 載せるということについては掲載させていただきます。当初2月末に結構利用されている方からの意見も聞くということで27日だったと思いますけども、予定していましたが、コロナウイルス感染予防の観点から延期したところでありまして、広く見聞きぐらいに載せようと思っていましたけども、その部分がなくなりましたので。しかし、まずは早く知りたいんだという皆さんがいらっしゃると思いますので、1ページぐらい使ってお知らせをするということで計画しております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 磯貝助夫議員。

○議員（3番 磯貝 助夫議員） よろしくお願ひいたします。今、町民の皆さんは、3月15日まで待った公衆浴場が運営しないということで、いろんな不満もたまっている中で、12月にアンケートとして1月に検討委員会やって、その結果を町民に知らせるあるいは報告会も中止になったということで、この3カ月何ら情報が入ってこないという中での、今、休業ということでもありますので、かなり町民の方々も不満がたまっているという状況でありますので、今、町民の方とのお互いの情報をやりあうツールというのが、町報あるいはテレビ高千穂、あるいは防災無線いうところになろうかと思ひます。ぜひとも掲載のほうよろしくお願ひいたします。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） ほかに質疑はありませんか。安在昭則議員。

○議員（5番 安在 昭則議員） 5番、安在です。

町長にお尋ねします。コロナウイルスの件なんですけども、今、毎日朝晩コロナウイルスのニュースというのがずっと流れておりまして、世界でも9万人感染して3,000人が亡くなっているという状況であります。日本においても、1,000人、4日の日に超えまして、今、12人目の方が亡くなっておりまして、3月当初はよそごとみたいに言っていたんですけど、段々数日前には宮崎県にも出ております。

現在、高千穂において、もし発生した場合に、多分、対策委員会というのをつくってあるとは思ひますけども、どういう組織でどういう動きなのか教えていただきたいと思ひます。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） お答えいたします。

高千穂町では、2月26日の日に新型コロナウイルス感染症警戒本部ということで設置をしたところあります。そして、なお一層の……、高千穂町にといいますか、個人個人がかからないということとうつさないということ、これ発症しなければなかなかわからないという部分もありますので、仮にウイルスをもらっていることに気づかずうつしてしまうということが、仮にあるということもあってはならないことですので、予防するということについての啓発というのを、防災無線等でしっかりやらせていただいているところあります。

そして、それをもとに、昨日も宮崎県でおととい発生したということを受けまして、警戒本部の会議を開催いたしまして、今後、高千穂町で発生をしたらどのように対応しようかということ、初動の確認、そして各担当部署がどのような仕事をやっているのか、またあるいは県、保健所との連携あるいは教育機関、いろんなところとも連絡調整どうするのかということについて確認をしたところあります。

高千穂町におきましては、高千穂町内で発生をしたというようなことがわかった時点で、感染症対策本部にワンランク上げまして対応したいというふうに考えております。

対策本部としてやるべきことも警戒本部と変わらないわけでありますけれども、まずは正確な情報を町民の皆さんにお伝えするという、そして、かからない、うつさないということについての対応をしっかりとやっていくということ、そして町の施設なんかの運営……、どうしていくかということ、しっかりと県の対応にならって、閉めるべきところは閉めるということ、直接人が集まってということがないような対応をしていきたいというふうに考えております。

個別の対応については、決め事といいますか案としてはありますので、これについてどうするんだということがもしございましたら、またそれぞれに聞いていただければというふうに思っているところであります。一応、それぞれの部署がどういうことをやるということについては、決め事を定めたい、各課長に配付をして、迅速な対応ができるような体制を整えているところであります。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 安在昭則議員。

○議員（5番 安在 昭則議員） 一つは、この感染症コロナ新型ウイルスというのは、受け入れ機関ですね、これけさの新聞にも載っていましたが、県内でも感染症指定医療機関というのが県病院を含めて7つしかないということで、床数も31床しかないんですね、今のところ。これ今のところ1人しかまだ感染者出ておりませんので、全然対応大丈夫だと思うんですけども、これ高千穂で発症した場合に、当然、高千穂の町立病院では対応できない、そうなってくると延岡まで運ばなきゃいけない。そういったときのマニュアルというかそういうものができているのかどうか、ちょっとそこもう一度お伺いします。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） 高千穂町立病院にも、対応病床ということは準備をしております。そして、保健所と連携して、高千穂町立病院で受け入れができなくなった場合の対応については、保健所のほうと町立病院のほうとで準備をしているところでありますので、詳細につきましては、もし必要があれば町立病院事務長のほうから説明をさせます。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 病院事務長。

○病院事務長（戸高 雄司事務長） ただいまの質問ですが、高千穂町立病院におきましても、受け入れができる体制を整えてマニュアルを作成しております。きのうの県の発表もありましたと思いますが、延岡、西臼杵地区では、当初、受け入れる緊急病院は県立延岡病院だけでしたが、延岡、西臼杵につきましては、県立延岡病院を含めた3病院ということで報告がなされているかと思っております。

町立病院につきましても、外来患者との動線等を隔離する進入路等の確保をしておりますし、

高千穂保健所のほうとの連携を速やかにできるように、マニュアルで各職員にも通知しているところであります。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 安在昭則議員。

○議員（5番 安在 昭則議員） 病院事務長にも一度確認しますけども、それは高千穂の町立病院でも受け入れはできるということによろしいのでしょうか。

○議長（工藤 博志議員） 病院事務長。

○病院事務長（戸高 雄司事務長） そうですね、高千穂町立病院におきましても、2月の20日に受け入れ態勢が整いましたので、それで保健所のほうに報告して保健所のほうから県のほうに報告がなされているところであります。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 安在昭則議員。

○議員（5番 安在 昭則議員） それでは、現状をお聞きしたいんですけども、実際、今、国で言われているのが37.5度、これが4日続いたときに病院じゃなくて保健所とかこういう機関に連絡くださいということなんですけども、実際に高千穂保健所で検査したとしても、これ多分県の衛生環境研究所、ここに送らないと多分結果は出ないと思うんです。そうなってくると、結局そこで4日、向こうに出して1日、結果が出るのにまだということになると、もう1週間ぐらいかかってしまうんですけども、もしこれがインフルエンザと……、普通の人というか、多分これわかりにくいということで、多分すぐにはどちらかというのわかりにくいと思うんですけど、そこ辺で実際に町病院のほうに風邪で来られたかコロナで来られたかわからないと思うんですけど、そういう方の患者さんというの、今どんな状態なんでしょうか。

○議長（工藤 博志議員） 病院事務長。

○病院事務長（戸高 雄司事務長） 現在は、そういった張り紙も玄関にしておりますし、うちの検査等につきましては、そういった症状での聞き取り調査あと保健所側からの聞き取り調査、それに伴いまして、まずコロナウイルス以外の疾患の検査を行いまして、それで陽性が出ればそちらの病気ですので、そちらでの対応、処置をしているところであります。

これにつきまして、陰性が出たときに、最終的にはコロナの検査をするということになっていきますが、昨日まで高千穂町立病院では、1件の検査のみで、あとは全てその前の聞き取り調査で検査までは至っておりません。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 安在昭則議員。

○議員（5番 安在 昭則議員） 非常に少ないということで安心しておりますけども、けさの新

聞にも出ていましたように、宮崎で感染された方、これ以外に疑いのあるところで、それに医療機関に行かれて、そこのお医者さんと看護師さん、この方たちは2週間ぐらい自宅待機というな状況になっている状態なものですから、高千穂でもそういった方がもしおられるんだったら、今後出る可能性もあるかなというふうに思いますので、ひとつ非常に少ないということで安心をしております。

最後になりましたけど、町長にお伺いしますけども、実際に我々議会も全然こういった対策というのが新聞とかテレビで見るだけであって、町からの説明というのも、全然聞いていなかったし、今どういう状況かというのもわからなかったんですけども、我々に上がってくるときには、実際に出てからしか上がってこないのか、そこあたりをお伺いします。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） そうですね、高千穂町の対策本部等についての状況については、ちょっとお話もありましたので、議員の皆様には現在の町としての組織の立ち上げ、またどういったことに取り組んでいるかというものについては、時間をとらせていただいて、どこかで早い中で説明をさせていただければというふうに思います。どうか時間をつくっていただければというふうに思います。よろしくお願いいたします。

○議長（工藤 博志議員） 安在昭則議員。

○議員（5番 安在 昭則議員） ひとつよろしくお祈いします。我々のところにも、町のあれは今どうなるととやとよく連絡はいただくんですけど、なかなか明確な回答ができなくて、困る部分もあるものですから、そういうところの報告をいただければと思っていますので、どうぞよろしくお祈いいたします。

終わります。

○議長（工藤 博志議員） ここで、11時10分まで休憩します。

午前10時57分休憩

.....

午前11時10分再開

○議長（工藤 博志議員） 休憩前に続き、会議を開きます。

ここで、福祉保険課長の発言を許します。

○福祉保険課長（有藤 寿満課長） 先ほど、中島議員のほうから産婦人科診療所の利用者数についての御質問がありました。28年度から申し上げたいと思います。28年度が年間1,085名、29年度が1,023名、30年度が1,033名、元年度、ことし1,000名を今見込んでいるところであります。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） ほかに質疑ありませんか。本願和茂議員。

○議員（6番 本願 和茂議員） 議席番号6番、本願。

企画観光課長にお尋ねします。私の事業の内容をちょっと把握していないのもあるんですけども、議案5号の令和元年度高千穂町一般会計補正予算についてです。議案書39ページの地方バス路線運行対策事業補助金211万9,000円が補正となっていますが、これは公共交通機関利用整備促進事業の補助金でありまして、宮交に実績払いとする補助金だと思うんですけども、利用者が増になったための増額補正なのか、下回ったのを補填する補助金なのかお尋ねします。

○議長（工藤 博志議員） 企画観光課長。

○企画観光課長（山下 正弘課長） これにつきましては、昨年度の補正で対応させていただいたところではありますが、当初予算の時点では、いつもこの時期に確定するものですから、当初予算の時点で、なかなか確定ができないということで500万円をこしは見込んでおりました。それで、利用者が増ということではなく、確定してからの精算といいますか、その見込みでさせていただいているということです。ちなみに昨年度比からしましても40万ぐらい補助金がふえておりますので、利用者については、横ばいということでありまして、そんなに増加したということではないことになります。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 本願和茂議員。

○議員（6番 本願 和茂議員） 令和2年度の予算でも500万、一応予算計上されておりますけども、利用者がふえたための補正とかじゃなくて、最後実績で対応するという事なんですけども、今回飛行機等もコロナウイルスで減便になっておりますし、さまざまなことが自粛されているんですけども、政府の対応でこうなっているの、利用者も減るのかなと思っているんですけども、当初の契約でこういう協定を交わされているのか、どういったシステムになっているのか、ちょっとお聞かせください。

○議長（工藤 博志議員） 企画観光課長。

○企画観光課長（山下 正弘課長） これにつきましては、まず宮交さんのほうが県内全体での走ったキロ当たりの経費というのをいさされまして、それについて全体の赤字額といいますかを沿線の市町村で負担するということになります。これについては、半分近くの国庫負担があるわけではありますけれども、その残りを沿線自治体で負担するということでありまして、そのとき、そのときで、当初に予想といいますか、契約とかあるものではなく、実績に応じて毎年補助をしているというような状況であります。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 本願和茂議員。

○議員（6番 本願 和茂議員） 今回は、感染症のような特例の場合もございますので、例年どおり同じような補助をするのではなく、そういった要望も今後していただければいいのかなと思っております。

次なんですけども、先ほど定信議員も触れましたけども、統廃合問題の町長が述べられた行政報告等について、ちょっとお尋ねします。

先ほど町長が言われたように、統合するとレギュラーになれないとか、そういった小さな意見も聞く耳は持ってもいいのかと思いますけども、私の見解では、努力が足りないからレギュラーになれないんじゃないかなということもありますし、礼儀とかそういう作法を覚えて、競技力は常に負けていてもよいかと思いますけども、そういった礼儀作法とか挨拶もできないチームは、やはり勝てないと僕は持論を持っています。

そういったことも考えると、レギュラーになれないから部活動だけは旧学校で出場するとかそういうエゴですね、そういうことまで聞いてくと、いつまでたっても統廃合は実現できないんじゃないかなと思います。実際、子供の大会等も観戦に行きますけども、上野、田原については、部活動はしているのかなというぐらい出場するスポーツが、もうここ何年かですごく減っておりますし、先ほど言われたように卒業生の何名かは高千穂中学校に行かれるということなので、そういった裏切り者ではありませんけども、越境通学する環境がちゃんと整っていればいいんですけども、そういった地元を離れて、越境する通学する生徒をフォローできる体制を今後していかないと、対応を令和3年3月にしなくなったのであれば、そういったフォローする体制を並行してしてほしいなという考えを持っております。

意見交換会の中でも、教育委員会には申し上げましたが、そういったフォロー体制を並行しながら今後進めていくのか、教育長のほうにお尋ねしたいと思います。

○議長（工藤 博志議員） 教育長。

○教育長（濱田 琢一教育長） 御質問にお答えいたします。

まずお礼を申し上げます。上野地区、岩戸地区の座談会を行いましたけども、多くの皆様に、議員の皆様に御出席をいただきまして本当、心より感謝申し上げます。

さて、田原地区のことにつきましてですが、先ほど町長が申し上げましたように、いろんな状況で保護者はやはり反対という部分があります。ただ、田原地区の場合は、実際に統廃合に反対という人数は9%ぐらいですから、あとは条件面について反対ということで、通学方法それからあとは部活動等々です。したがって、先ほど申し上げましたように、通学方法についてはこういった方法ですと、部活動については夏の大会が終了した後は、高千穂中学校並びに田原中学校で合同練習をするなどして、そういった不安をなくすというふうなことを条件として出しまして、保護者の理解を得たいというふうに思っております。

それから、地域の皆さんについては、地域で懇談会した際に、地域の皆様は学校の保護者の意見を尊重しますということで、ありがたい話をいただきましたので、したがって後は、そういった条件を提示して保護者の理解を得るということでございます。5月までにはしっかり皆さんに報告ができるような形にしたいと思っています。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 本願和茂議員。

○議員（6番 本願 和茂議員） 今回そういった結果に至ったことを町長の行政報告の中で知った議員も多いので、全協とかそういった場でもっと事前に報告してもらうことも大事かなと思っております。

田原のほうは、今後行政側の対応次第ではスムーズに統合がなされるかと思うんですけど、岩戸が統合した際は、スクールバスの要望もかなりあったかと思えますけども、既存のふれあいバスを利用して、子供たちを送迎するんだというそのときの町政の方針であったので、それに従って、今、子供たちが通っております。子供たちがふれあいバスを岩戸地区、向山等利用する中で、ふれあいバス需要がかなり推進されているんじゃないかなと、一躍買ったのではないかという感覚を持っています。その中で、田原の中からスクールバスを出してほしいという要望がありますけども、そのとき、そのときの情勢で方針も変わるのかなと思うんですけども、ふれあいバスを利用したほうが、町のためにも財政的にも一番有効ではないのかなと思うんですけども、町長はどのように考えられておるのか、お聞きしたいと思います。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） スクールバスの対応については、岩戸での経緯も踏まえて考えていかなければならないというふうに思っています。

スクールバスというふうにおっしゃる背景には、日之影、五ヶ瀬がスクールバス対応ができていないかというようなことからのお話が多いように感じております。高千穂につきましては、幹線を、通学を担う路線でのふれあいバスの路線が、かなり充実をしているというところもともとあったものですから、そのふれあいバスを利活用、どうしても不便な場合には増便、ダイヤ改正、さらに子供たちの通学時間に合わせた便を増便するんだという形でのふれあいバスでの対応、ふれあいバスとはいっても、子供たちに合わせるというような意味では、一部スクールバスの意味合いにもなるのかなとは思っているんですけども、既にそういった路線があるということを前提に、うちの場合は考えたいということでもあります。

ですので、当然、田原、上野のためにスクールバスを出すということになれば、じゃあうちはどうなんだということになりまして、岩戸あるいは向山、押方そのあたりについても、全部出さなければならないということになってくれば、相当な経費がかかるということを考えたときに、

やはりふれあいバスで増便あるいはダイヤ改正、利便性の高い形で、ふれあいバスを充実をさせるんだと、そしてどうしても賄えない部分については、一部、例えばタクシー利用であるとか、そういったことをやっていったほうがトータル的にコストも安く済むということを念頭に考えております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 本願和茂議員。

○議員（6番 本願 和茂議員） ぜひその双方にとってよりよい策が出されることを願っております。本当に少数意見とか親の意見を聞くのは大事かと思えますけども、そればかり聞いていると先に進みませんし、ある程度行政主導で令和3年3月31日にするというぐらい、言葉を出したときの意気込みを最後までずっと継続して進めてほしいなと思います。

その中にはやはり、高千穂高校存続もちゃんとかかっているんだということを、改めて田原とか上野の地区の人たちに考えてもらって、決して地域を衰退することばかり考えるんじゃなくて、高千穂高校、子供たちのためにこの案件はあるんだということを再度周知して、進めてもらいたいと思います。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） ほかに質疑ありませんか。馬原英治議員。

○議員（8番 馬原 英治議員） 8番、馬原です。

第5号の補正予算につきまして、ページ39ページ、企画課長にちょっとお伺いたしますけれども、今、本願議員が言いました地方バスの下の方ですけれども、婚活関連事業、これがマイナス30万の減額になっておりますけれども、そこの内訳を教えてくださいと思います。

○議長（工藤 博志議員） 財政課長。

○財政課長（佐藤 英次課長） 馬原議員の御質問にお答えいたします。

これは、総合政策室のほうで計上した予算でございます。婚活事業につきましては、今、年に数回行っております直会…若い人たちが集まって居酒屋をはしごするという企画があるんですけども、それとタイアップさせてしようかという計画であったんですけども、なかなか行政が絡んだりすることには、なかなか人が出にくいとか、そういう意見がありまして、一応そのほうについては事業として取りやめまして、今の北部広域行政組合のほうで、それに似たようなイベントを実施されておまして、そこのほうに参加者も多いし、そしてカップルも成立するという組も何件かありますので、そちらのほうに移して、総合政策室での町の単独での事業ということでは落としたということで、予算のほうも減額したところであります。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 馬原英治議員。

○議員（8番 馬原 英治議員） その前にちょっと婚活ということで、この高千穂も少子化ということで、町民生活課長にお伺いいたしますけれども、令和元年度の出生届けというのは、毎年減っていましたが、ことしはどんな状況でございましょうか。

○議長（工藤 博志議員） 町民生活課長。

○町民生活課長（興梠 晶彦課長） 馬原議員の御質問にお答えいたします。

令和元年度4月1日から2月までの末日で51名であります。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 馬原英治議員。

○議員（8番 馬原 英治議員） 財政課長に再度お伺いいたしますけれども、やっぱりここで減額30万されておりますけれども、今現在、去年は確か七十数名だったと思うんですけれども、やっぱり出生者数が年々大幅な減少になっておりますけれども、行政だけでは婚活とそういう事業をやるのも無理がきているところで、一つだけ提案なんですけれども、今後は、やっぱり減額30万をされるんじゃなくて、5万、2万とか分けて、そしてJAはJAで取り組んでほしいし、商工会は商工会で、やっぱりそういう組織の中に行政がかかわっていくと、行政だけでは無理があるんじゃないかと思うんですけれど、そういう予算の使い方も今後必要じゃないかと思うんですけれど、財政課長どうでしょうか。

○議長（工藤 博志議員） 財政課長。

○財政課長（佐藤 英次課長） おっしゃられました御意見を参考にして、今後少しでも若い人たちのそういう婚活に対する、うまくカップルが成立するような事業ができないか、知恵を絞っていきたいと思っています。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 馬原英治議員。

○議員（8番 馬原 英治議員） やはり今、私も聞いて50名ということになったら、それだけ高千穂町の将来、いろんな町長の方針の中で示されるのが、困難な状況になってくると思うんです。行政だけが責任を担うんじゃなくて、JAもそういう、一つだけ参考的に言いますけれども、やっぱり農業ということで結婚を見送るとか、そういうことが多少あるんじゃないかと思うんですよね。そこ辺をかねてJAにもう少し、そして商工会にですね、ほかの組織にも働きかけて、そういう参加人数によって食事代を出していくとか、そういうことをほかのどこにもこっちのほうからやっていくのが、本当の行政のやり方ではないかと思うんです。

再度、今度は別の案件になりますけれど、財政課長に聞きますけれども、39ページの中ほどに、ふるさと納税の業務委託料というのがございましてけれども、確か当初は150万前後の予算の中で、これだけ委託料というのが減額されておりますけれども、その内容をちょっと説明していた

だきたいと思います。

○議長（工藤 博志議員） 財政課長。

○財政課長（佐藤 英次課長） 委託料の減額につきましては、例年11月から12月にかけて、かなり申し込みが殺到しまして、繁忙期を迎えることとなります。当然当初予算におきましては、昨年を超える申し込みがあると予想いたしまして、予算の計上をしたところなんですけれども、12月の補正予算で申し込み件数が減ったということで減額しております。

そしてその繁忙期に1カ月、2カ月だけに臨時職員のような雇用の形態をとって委託という形で職員を、業務をしていただくというふうにして予定しておったんですけども、御存知のように申し込み件数がちょっと減ったために、現在の職員体制でできるということで、その人件費とみていた分を、ちょっと採用しなかったということで、その分の人件費を削除、減額したところであります。

当然、私たちもその分正月に、課長以下担当以外の職員も三、四人出てきまして、31日と元旦の日に出てきて、そういう業務に当たって、そういうところでカバーしたというところでございます。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 馬原英治議員。

○議員（8番 馬原 英治議員） 減額は、やっぱり100万というのは大きいと思うんです。それで令和2年度のふるさと基金のほうは減額されて1億5,000万ということでなっておりますけれども、やっぱりこれも都農町やらを考えますと、外部委託とかそういう方向性で、今後は考えていかなければいけないんじゃないかと思います。再三、板倉議員のほうがその辺を申し上げておりますけれども、行政としても、何らかの対策といいますのも、やっぱり今後、国の財政も1,000兆円の借り入れをやっておりますから、今後交付金も減少する中で、やっぱり町財政を潤うのは、このふるさと基金が大部分的に財政を潤う方法じゃないかと思うんですけども、今後その辺のこの100万円というのも、もうちょっとうまく使ったらよかったんじゃないかと思うんですけども、そこら辺のどこ、財政課長お願いします。

○議長（工藤 博志議員） 財政課長。

○財政課長（佐藤 英次課長） 財政課長。ことし、やはり申し込み件数、金額が減ったということで、一応手をこまねいていたわけではございませんで、一応、楽天というふるさと納税のサイトがありますけども、そこに並んでいる高千穂牛のリニューアルとか図りまして、見栄えをよくしたところであります。

そしてまた、2年度につきましては、ふるさとチョイスという新しいサイトを追加する予定にしております。

今回、確かに申し込み件数は減ったんですけれども、昨年の11月に比べましたら、補正予算を出す前には49.6%で昨年度比だったんですけれども、今2月現在まで70%近くまで、少し回復はしているところです。おっしゃられた意見を参考にいたしまして、少しでもふるさと納税額がふえるように、また努力していきたいと思えます。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 馬原英治議員。

○議員（8番 馬原 英治議員） 最後に、ここで100万減額するんじゃなくて、100万円をふるさと納税のために別の要件で使っていくと、用途で使っていくと、PRとかそういうのをやっていくと、そういう減額の仕方もあるんじゃないかということで、今後、そういう方向性で、いろいろなふるさと納税が少しでもしていただくことを願ひまして、最後の言葉といたします。

○議長（工藤 博志議員） ほかに質疑ありませんか。坂本弘明議員。

○議員（10番 坂本 弘明議員） 10番、坂本。実際、数字には上がってきていないんですけれども、ちょっと先ほどの議員控え室で花の予約等ございましたので、ちょっとお伺いいたしますけれども、阿蘇山の噴火降灰によりまして、非常に農作物の心配もしておったんですけれども、その被害があるのかどうなのか、またあればその対策はきちんとできているのかどうか、それをちょっとお伺いしたいと思ひます。

○議長（工藤 博志議員） 農林振興課長。

○農林振興課長（甲斐 徹課長） 坂本議員の御質問にお答えします。

阿蘇山の降灰が昨年少しずつ始まっておったところなんですけれども、10月時点でシイタケが出てくるというところに、JA、3町集まりまして対策を協議したところでもございました。

それから、一応まだその時点ではそんなに降灰は多くなかった状況でしたけれども、用心的に被覆用のビニールを購入するというようなことになりました。実際、シイタケが出てきたところに、何回か多くの降灰があったようにも思ひます。それに関しまして、被覆用に買ったビニールに関しましては、補助をつけるようなことで、3町で検討しているところでもございます。

また、ほかの作物については、現在直接被害があったというふうには、降灰による被害というのはあったようには、私のところでは、まだ聞いていないところです。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 坂本弘明議員。

○議員（10番 坂本 弘明議員） 先だって課長のほうには、そのシイタケについてはお伺いしたところなんですけれども、生産者の中には知らなかったと、JAは何もそういう事業はないとかそういう話があったもんですから、直接聞いたんですけれども。先ほど花の注文書が回りましたけれども、いわゆる今回のコロナのウイルスによりまして、そういった集会であるとかお祝いご

と、卒業式等自粛になっておりまして、そういった花が出荷できないというようなことでありますが、これを災害と捉えるのかどう捉えるのか、何らかの手立てを今後考えなければならないかどうか、ちょっとお伺いします。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） それこそ今の時期は、本来、送別会とかそういった学校関係を含めてですけれども、いろんな集まりごとがあつて、特にスイトピーとかの花は旅立ちにふさわしい花というようなこともありまして、そのあたりの需要が大変減っているということは、もう理解しておりますし、また、飲食店関係についても、大変な影響がある。旅館業の方に聞いても、宿泊客が減ってキャンセルが相次いで非常に厳しいですという実情も聞いております。当然、牛肉についても全国的な話ですけども、下がってきているということでもあります。

そこをどのように支援できるかということについては、今、商工会のほうあるいは事業者のほうに対して、コロナに対応する金融支援がありますよというようなことも広報されていますけれども、農業関係については、JAさんともまだどこまでこういった状況が続くかということもありますけれども、しっかりと協議して内容を把握して、そして何かしら支援が必要かどうかということも今からになりますけれども、そういった状況が非常に厳しくなっているということ把握していますので、しっかり関係団体等集まって、意見交換して、支援策が必要かどうかということも含めて、今から考えていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 坂本弘明議員。

○議員（10番 坂本 弘明議員） 最終的にはそういった財政的などころでの支援になるのかなと思ってるんですけども、なかなか何でもかんでもっていうふうに支援はできないというふうに思いますが、できることであれば、少しでも支援ができればいいのかなというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

次に51ページですけれども、社会資本整備総合交付金事業、関連してと思うんですけど、53ページの電柱敷地補償金の減額ですね。この内容をお伺いしたいと思います。

○議長（工藤 博志議員） 建設課長。

○建設課長（佐藤 雄二課長） これが、この事業が道整備交付金事業という道路改良事業でありまして、交付申請額、当初の予算要求額で予算計上していたんですけども、それに対して国のほうが決定した額というのが満額つかなくて、その分の減額となっています。その中で電柱移転料とか、そこら辺の組み替えもあわせて行ったところでもあります。

○議長（工藤 博志議員） 坂本弘明議員。

○議員（10番 坂本 弘明議員） 満額つかなかったということは、要するにもう当初全体の計

画は全くできなくなったということなんでしょうか、どういうふうに捉えればいいんでしょうか。

○議長（工藤 博志議員） 建設課長。

○建設課長（佐藤 雄二課長） これ道路事業全般なんですけども、この道整備交付金とか社会資本整備総合交付金とか、そういった事業の中で、路線を何路線かずつ上げて要望しているところでありまして、あとこれは国の予算の関連で、国のほうは当初予算でいくらつくかによって、それぞれ都道府県に割り当てがあって、またそれを市町村に割り当ててくるところでございます。

なかなか当初から満額つくことはなくて、補正等であと不足した分をつけてくる場合もあるんですけども、今年度の場合は本町には補正予算がこなかったということで、当初に対してこれだけの減額となっております。

○議長（工藤 博志議員） 坂本弘明議員。

○議員（10番 坂本 弘明議員） わかりました。この事業の中でいわば用地の交渉までは、もう済んでいるんですけども、事業ができなくなった、何でだろうみたいなそういった話も聞いたものですから、要するに順位があって、できるところとできないところがあったということよろしいんでしょうか。

○議長（工藤 博志議員） 建設課長。

○建設課長（佐藤 雄二課長） 今年度当初から計画していた路線については、その事業費が減額になった分は、一応工事請負費が例えば一つの路線で5,000万円みていたところ、3,000万とか4,000万とかそういった減額をして、計画していたところについては、今年度に関しては、全て着手はしているところです。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 坂本弘明議員。

○議員（10番 坂本 弘明議員） 当初計画どおりということよろしいんですね。

○議長（工藤 博志議員） 建設課長。

○建設課長（佐藤 雄二課長） 箇所については計画どおりですね、その箇所ごとの事業費については減額しているところもあります。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 坂本弘明議員。

○議員（10番 坂本 弘明議員） わかりました。

次に、木造住宅リフォーム補助金について300万の減額、この減額につきまして、申し込みが足らなかったといいますか予定に達しなかったというふうな内容の減額になるんでしょうか。

○議長（工藤 博志議員） 建設課長。

○建設課長（佐藤 雄二課長） このリフォーム補助金につきましては、当初予算では50件の1,000万ということで計上させて頂いておりました。9月いっぱいまでに要望受け付けをいたしまして、そのときの要望額、件数要望に応じた形で、一度補正を行ったところでございますけれども、実際実施の申請を今、受け付けている途中でありますけど、やはり申請者の都合とか、あと施工を請け負った大工さんたちがちょっとそこまで手が回らないとかいうところで、キャンセルが発生いたしまして、その分が減額になったところであります。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 坂本弘明議員。

○議員（10番 坂本 弘明議員） 要するに、そういった仕事に対して、大工さんの数が合わないということなんですか。どういうことなんですか。

○議長（工藤 博志議員） 建設課長。

○建設課長（佐藤 雄二課長） 大工さんの数が足りないというよりも、やはりいろんな付き合いがある大工さんに、年度当初各個人のほうから要望がされて、その大工さんを通じて町のほうに当初の申し込みがあるわけなんですけども、実際それを、工事を着手しようとしたときに、やはり大工さんのほうの労働者が不足していたりして、例えば1人で20件ほど受けているところもあったりするんですけれども、とても年度内にちょっとそこまで全部手が回らないということで、次年度にまた先送りしたいというようなことで、今年度分はキャンセルしますということになっております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 坂本弘明議員。

○議員（10番 坂本 弘明議員） 非常にもったいないかなというふうに思うんですけれども、できるだけ、例えば受け持てる件数の制限であったり、それから1回リフォーム事業使った人はもう使えないとか、そういう制約があるわけなんですけれども、いろいろと柔軟にできないものかなと、前から考えていたもんですから。1回使った人は、もうこの事業使えないというようなことじゃなくて、またそういう申し込みとか、こういった減額ということが出るのであれば、2回目もオーケーですよみたいなことで、この事業はできないものかなというふうに前から考えていたんですけれども。

こういう予算の使い方私は一番いいと思うんです。町内で経済が回っていくということですね、この事業が。そういうことを考えたときに、そういう事業の内容を緩和したり、また規制したりということではできないものなんですか。

○議長（工藤 博志議員） 建設課長。

○建設課長（佐藤 雄二課長） この住宅リフォーム事業というのが、もう平成24年から着手し

ておりまして、年々要望が増加していった予算も膨らんできているところでありまして、なかなか一度使った人に再度また補助をするという形になれば、さらに要望が出てくると思うんです。上限が事業費100万の5分の1の20万の補助となっていますけれども、例えば今でも500万ぐらいの改修をやって20万円の補助を受けるとかいう人もいますけれども、そういう人たちが小出しにして年間100万ずつ毎年毎年要望するということが想定はされるわけで、やはり今のところはとりあえず一応利用した人については、再度2回目はないということで考えていますけれども、24年からやってきて、10年たった後、また10年後にやるということに対しての補助とかそういったことは考えられるかなとは思っていますので、そこら辺についてはまた今後検討はしていきたいと思っております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 坂本弘明議員。

○議員（10番 坂本 弘明議員） 要するに事業を使う側、2回3回となるというそれは余り好ましくないという考えかもしれませんが、町内のそういった工務店、建築業の人たち、ひとり親方も含めまして、そういった方が収入になると経済を回していくという考え方のもと、柔軟に考えていったほうがいいのかなというふうに思いましたので、そういう考えを述べさせていただきます。以上です。

○議長（工藤 博志議員） ほかに質疑ありませんか。板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） 2番、板倉です。まず、報告第1号、議案書の1ページについて、建設課長にお尋ねしたいと思います。

南平団地の工事の金額が増額したというものなんですけれども、この南平団地の工事が正式に議決したのが去年の6月の議会です。そのときにも私が質疑した内容をもう一度質疑したいと思うんですが、どういった内容かといいますと、去年の6月8日付の宮日新聞の記事で、「宮崎県と県の建設業協会の取り組みで、公共工事については第2土曜を休みにしようという動きがある」ということで、さらには今年度平成31年度令和元年度については、これは日本建設業連合会の発言なんですけれども、「第2土曜に加えて第4土曜も休みにするよう提案している」というような新聞記事がありました。県としても、この公共工事の第2土曜の休みというのを推進したいということで、ただ、休みがふえるとその機械のリース代等余計にかかりますので、その分補助するような内容の新聞記事がありました。

つまり、今までよりも工事費が1%から5%ふえるんですけれども、県としては、その分補助しているという新聞記事がありまして、そこでお伺いしたいんですが、今回の報告第1号の増額、この増額の要因が、こういった第2土曜だったり、第4土曜を休みにしたことによる増額なのか、あるいは全くそういったことは関係のない増額なのかをお聞かせください。

○議長（工藤 博志議員） 建設課長。

○建設課長（佐藤 雄二課長） 今回、南平団地建設工事に係る増額分については、週休2日制とかの導入とかとはまた関係のない、別の現場の条件によって生じた変更で増額となっております。以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） ということは、南平団地B棟の工事については、週休2日ではなく、週休1日とかというような工事で行われたということではないでしょうか。もう一度建設課長にお伺いします。

○議長（工藤 博志議員） 建設課長。

○建設課長（佐藤 雄二課長） 通常の積算で行った週休2日制の割り増しの工事費は計上しておりません。以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） 先ほど紹介しました第2土曜だったり第4土曜を休みにしようという取り組みの目的は、やはり働き方改革といいますか、今、建設業人手不足ですので、少しでも労働環境をよくして働き手を確保しようと、そのために第2土曜だったり第4土曜を休みにしようという動きなんですけれども、やはり町内を考えてみても、建設業で働く方、どんどん減っているのかなという印象を受けております。町としても、こうした公共工事については、第2土曜とか第4土曜を休みにするということができないものかなというふうに思うんですが、そういった例えば入札時にそういった条件をつけたりすることができるのかどうか、再度、建設課長にお尋ねしたいと思います。

○議長（工藤 博志議員） 建設課長。

○建設課長（佐藤 雄二課長） 週休2日制の導入については、国、県あたりは試行的に行っています。国のほうはもうそういった条件をつけて入札とか行っておって、県のほうでは試行的に現場を指定して、そこで入札のほうをとり行って、現場のほうで実施していただいているところもありますけれども、まだ市町村については、そこまでやっているところはないのかなと考えているところがございますけれども、おっしゃるように、今まで技術者不足とか労働者不足の中で、労働条件の改善というのは取り組んでいかなければいけないことでありますけれども、なかなか建設業の中で、今回の南平団地に関しましても、建築事業費2億円ちょっとでありましたけど、その中で下請とか孫請を考えたときに、20社近くの業者が入ってやっている状況です。その中でもひとり親方とかそういった人たちもたくさん入ってきて一緒にやっていますけれども、そういう人たちと一緒に事業をやっていく中で、土曜日は休みますよという話になったときに、なかなかそ

ういう下請、孫請の業者の人たちが厳しい面もあるのかなというところで、そこら辺も十分検討しながら、今後、建設業協会あたりとも意見交換して取り組んでいきたいと思います。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） 今、課長がおっしゃられた事例もわかるところもあるといいますが、目先の短期的なことだけを考えれば、休みが1日でもいいんで短期的に稼ぐというのわからなくはないんですけども、ただやはり長期的に5年だったり10年だったり、もっと先のことを考えたときに、やはり労働環境をよくして、働き手を確保するという動きは必要になるのかなというふうに思いますので、町としても、そういったところをぜひ検討いただければというふうに思います。これについては以上で終わりたいと思います。

次に、議案第5号の一般会計補正予算について、まず総務課長にお尋ねしたいと思います。

議案集の33ページになります。33ページの旧マイクロバスの売払収入としまして、20万円が上がっていますけれども、どちらに売却されたのかお教えてください。

○議長（工藤 博志議員） 総務課長。

○総務課長（石渕 敦司課長） これにつきましては、高千穂高校の野球部が保有しているバスが非常に古くて悪くて故障が多いという話があって、保護者のほうから買いかえに当たって譲ってもらえないかというお話がありまして、売却をしたところでありまして、この売却の価格については、新しいバスを購入いたしました業者に下取りをした場合幾らになるかという見積もりをとりまして、その価格で高校野球部の保護者のほうに売却をしたところでありまして、

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） 高校の野球部にということだったんですけども、高校の野球部という売却先を決定するに当たって、どのような順序といいますか手続をされたのかお教えいただければと思います。具体的には、要は町が持っているバスをどなたかいませんかと広く募った状態で、希望者が高校の野球部だけだったのか、あるいは複数の希望者がいたのかとか、そのあたり高校野球部に決まるまでの詳細をお教えいただければと思います。

○議長（工藤 博志議員） 総務課長。

○総務課長（石渕 敦司課長） 通常、車等の買いかえについては、購入した業者に下取りをしてもらうという形をとっておりますが、今回については、下取りに出す前に、高校野球部の保護者のほうから話があったものですから、金額的に下取りに出したのと変わらない金額ということで折り合いが付きまして、高校野球部保護者のほうに決定をしたということでありまして、広く公募をしたわけではありません。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（２番 板倉 哲男議員） ということは、通常は下取りするんですけども、今回は例外的にといいますか、野球部側からの相談といいますか、それがあったから野球部に決まったということだったと思うんですが、こういう事例をつくってしまったらといいますか、今後例えば今町が持っている車も数多くあると思うんですけども、そろそろ古くなってきたなというような車を見つけて、ちょっとそれほしいなみたいなそういう相談があったときに、同じような対応をするのかどうかお教えいただければと思います。

○議長（工藤 博志議員） 総務課長。

○総務課長（石渕 敦司課長） 基本的には、下取りという形でやっていきたいというふうに思っております。今回の高校野球部に関しては、前のバスが非常に高い買い物をされたというふうに聞いておりますし、それが何年もしないうちに修理がかなり多くなって、保護者として部の運営とても大変になってきたというお話が心情的にも何とか価格が折り合えばということで、今回そういう形になったわけでありましてけれども、基本的には、個々にそれぞれに応じて対応することも出てくるかとは思いますが、基本的には下取りという形で処理をしていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） このバスの件でもう少しある。バスの件ならいいけど、ほかの件なら。板倉哲男議員。

○議員（２番 板倉 哲男議員） 質問ではないんですけども、意見としまして、やはり行政としては、平等である必要はあるのかなというふうに思いました。つまり、もし野球部以外でバスが欲しいなと思っていた団体等があったときに、例えばそういう公募もなく野球部に決まってしまったというところで不公平感を持った方がもしいたら、それはよくないなと思いますので、今後、今回は本当に例外としてあったわけなんですけども、もし今後こうしたことがあれば、気をつけていただければと思います。この件については以上です。

○議長（工藤 博志議員） ここで、午後１時１０分まで休憩します。

午後０時０２分休憩

.....

午後１時１０分再開

○議長（工藤 博志議員） 休憩前に続き会議を開きます。

板倉哲男議員。

○議員（２番 板倉 哲男議員） 次に、同じく議案集３３ページの一番下にあります、一般寄附

金215万1,000円について、まず財政課長にお尋ねしたいと思います。

この寄附がどういった方からの寄附なのか、特に個人名とかは結構なんですが、可能な範囲でお教えいただければと思います。

○議長（工藤 博志議員） 財政課長。

○財政課長（佐藤 英次課長） 板倉議員の御質問にお答えいたします。

一般寄附金につきましては、家電販売店企業から1件、そして個人の方が4件——個人の方1つは団体でありますけれども、から1件、そして個人の方から2件、計4件となっております。以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） 非常にこうした寄附金をいただくということはありがたいなと思うんですけども、恐らくといいますか、直接受け取られたのは町長になるのかなと思うんですが、そういう受け取りの際にこのお金をどういったことに使ってくださいというような希望があったのかどうか、お教えいただければと思います。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） 特に指定してという内容はなかったかなと思いますけれども、全般的には、地域振興全般に使ってくださいというような内容がほとんどであります。一つは、1件は高千穂町出身の方からの寄附もありましたけど、関東方面にいらっしゃる方ですね、ふるさとのために使ってくださいと、そういった形での寄附であったと記憶しております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） ふるさと納税もすごくいいんですけども、ふるさと納税の場合やはり半分ぐらいが消えてしまうといいますか、町には入らないので、本当にこうした一般の寄附金というのは非常にありがたいなと思いました。

また、こうした寄附をいただいたお金で具体的にこうしたことができたというようなことは、ふるさと納税以上に明確に示してあげるとなおいしいのかなと、寄附した人にも目に見える形で、こういうことに使われたんだということで非常にいいのかなというふうに思っています。

ちょっと調べましたら結構、寄附の文化といいますか、そうしたのが地域によって違いがあるようでして、福岡市では、結構、寄附が盛んなようでして、これちょっと2017年の情報で古いんですけども、福岡市にある29台の救急車のうち、そのうち3割が寄附によって賄われているということで、非常に福岡はそうした寄附が多い自治体だそうです。

今言ったように寄附をすることで、こういうことができたというようなことを明確に示してあげることで、やはり寄附する側も気持ちよくもっと寄附しようという気持ちにもつながるの

かなというふうに思います。

ですので、ぜひこのいただいた215万1,000円については、何か具体的に目に見える形でこうしたことに使わせていただきましたと。例えば町の広報であったり、「テレビ高千穂」であったり、広く多くの方に知れ渡るような発信もしていただければと思うんですけれども、その点、寄附金の使途の広報ですかね、それについてのお考えを町長にお尋ねしたいと思います。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） 本当にそのような提案、確かにそのとおりだなというふうに私も思いました。

多額な場合は大きな事業ができますけども、お一方例えば1万円とか、そういった場合なかなかこれに使いましてというのは難しい部分もありますけれども、できるだけ目に見えるような形で、直接お礼状など書かせてはいただいておりますけれども、それプラスその後こういった形で使わせていただきましたというのを示すというのは、本当にありがとうございますという気持ちをさらに示すことになると思いますし、また、今後の寄附の増加にもつながることかなと思いますので、検討させていただきたいというふうに思います。ありがとうございます。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） ぜひ検討いただければというふうに思います。

次に、議案集の39ページ、午前中に本願議員が質疑されたんですけれども、地方バスの路線運行対策事業補助金について、企画観光課長にお尋ねしたいと思います。

私もちょうど1年前のこの議会で、1年前にも同様に質疑をさせていただいたんで覚えているんですけれども、午前中も話が出たんですが、年々この補助額が高騰していると。振り返ってみますと、28年度では477万、29年度では598万、30年度では676万ということで、年々高額になっている傾向にあります。

1年前に質疑をしたときの答弁としましては、県の公共交通会議等もあるけれども、なかなか町側からこうした補助金額の削減についての提案もできる、そういった町からの提案がなかなか難しいというようなことだったんですけれども、ただ、このように年々増額している状況を見ると、何かしらの手は打たないといけないのかなというふうに思っています。

そこで企画観光課長にお尋ねしたいんですけれども、例えばこの1年のうちにこの補助金の削減に向けた何かしらの動きがあったのかどうか、お尋ねしたいと思います。

○議長（工藤 博志議員） 企画観光課長。

○企画観光課長（山下 正弘課長） 補助金削減に向けたということで、補助金の削減、直接についての策というのはなかなか難しいわけでありましてけれども、これ結局、乗車する方がふえればという意味では、今年度、県北のほうで各市町村協力をしてバスに乗った方に署名のようなもの

を出して、それを高千穂でいえばまちなか案内所等にそれをお願いしましたけれども、それを持っていったらコーヒーが100円で飲めるとか、そういったようなサービスといたしますか、そういった乗車率を上げる方策はとったところであります。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） なかなか高千穂町だけで何か決められるようなことじゃないので難しいと思うんですけども、何かしらの手は打つ必要はあるのかなと思いますので、先ほどの乗車率の向上等、今後も引き続き検討をいただければというふうに思います。

次に、議案集43ページですけれども、43ページの養護老人ホーム入所措置事業の1,500万の減額について、保健センター事務長にお尋ねしたいというふうに思います。

この減額というのは、恐らく当初の予想よりも入所者が少なかったということだろうとは思いますが、もともと何名を予定していて現状が何名なのか、そのあたりの現状をお教えてください。

○議長（工藤 博志議員） 保健センター事務長。

○保健福祉総合センター事務長（林 謙一事務長） 老人ホーム入所措置事業費の扶助費の減額につきましては、ときわ園を50名と町外施設への入所者4名の1億1,453万1,000円で当初予算を計上しておりましたけれども、ときわ園の入所者が昨年4月時点で42名、それから、現在は45名というかたちと町外の4名は変わりませんけれども——ということになっておりますので、今回減額をさせていただいたところでございます。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） すみません、確認ですけれども、45名と町外4名ということは現在49名が入所されているということでしょうか、もう一度お願いします。

○議長（工藤 博志議員） 保健センター事務長。

○保健福祉総合センター事務長（林 謙一事務長） 保健センター事務長。町内の入所者は45名、それから養護老人ホーム以外の施設に4名町内の方が入っていらっしゃいますので、合わせて49名ということになっております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） すみません、再度確認なんですけど、ときわ園に入所されているのが45名ということになるということですか。（「はい」と呼ぶ者あり）はい、ありがとうございます。

ということは、当初50名の予定で予算を組んだけれども、現在がときわ園については45名ということで、今回の減額になったということなんですけれども、これに関連しまして、福祉保険課長にお尋ねしたいと思うんですけれども、ときわ園については社協に経営した分の赤字分を補填する形で指定管理料を支払っていますけれども、今回の措置費の減額で指定管理料がふえたり減ったりという変動はあるのかどうか、お教えてください。

○議長（工藤 博志議員） 福祉保険課長。

○福祉保険課長（有藤 寿満課長） 福祉保険課長。現在のところ、当初計画していた予算内で終わる予定であります。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） 今回の措置費の減額で指定管理料がふえるのかなと思っていたんですけど、その点は大丈夫ということで安心しました。

ただ、ときわ園については、令和4年の3月31日までの指定管理となっているかと思うんですけれども、それまでに経営的に自立してもらって、その後は指定管理料なしでもやっていける体制をつくるということで、今取り組んでいると思います。

つまり、今現在45名ということで、ただ定員は55名と思いますので、まだ10名分のあきがあるということになります。ときわ園の経営を考えると、やはりいかに定員を満たすかということが大切になると思うんですけれども、それについては行政の措置が必要ですので、なかなか社協だけでも難しいところはあると思いますので、行政側の努力も必要かと思います。再度、保健センター事務長にお尋ねしたいんですが、ときわ園の入所者をふやすといたしますか、定員を満たす今後の取り組みといたしますか、お考えがあればお教えてください。

○議長（工藤 博志議員） 保健センター事務長。

○保健福祉総合センター事務長（林 謙一事務長） 保健センター事務長。先ほどのときわ園の45名というのは、町内の方が45名入っていらっしゃって、残りの5名の方は町外から入所をされていますので、50名の今入所の定員ということになっております。

で、ときわ園につきましては55名が入所定員となっておりますので、残りが5名ほど今あきが出ている状態でありますけれども、ときわ園のほうも入所者をふやすような努力をされているようでありまして、町としても判定委員会の中で該当になる方がいらっしゃったら、なるべく定員に近づくようにしていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） 社協に頑張ってもらうのはもちろんとしまして、やはり行政側

の努力も必要と思いますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。

次に、議案集45ページの児童手当の652万円の減について福祉保険課長にお尋ねしたいというふうに思ひます。

午前中も話があつたんですけども、出生数が予想よりも少ないということでの減ということだと思ひますが、そのあたりの詳細とありますが、減になつた詳細についてお教へください。

○議長（工藤 博志議員） 福祉保険課長。

○福祉保険課長（有藤 寿満課長） 児童手当につきましては、支払いの区分が3つございます。1万5,000円を手当てするところ、1万円、5,000円と3段階に分かれております。

今回減額に至つた経緯でありますけど、1万5,000円を支給する区分のところ、3歳未満の子供、3歳以上から小学生までの第3子についての区分のところ、当初予定しておりました人数よりも35名減少しております。この分が減額の理由になっております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） この児童手当については、国の政策で行われているんですけども、ですので、国と県と町がそれぞれ負担しているということになるかと思ひます。

再度、福祉保険課長にお伺ひしたいのが、例えば652万円のうち、実際、町が負担すべきはずだつた金額はどの程度なのか、お尋ねしたいと思ひます。

○議長（工藤 博志議員） 福祉保険課長。

○福祉保険課長（有藤 寿満課長） お答えいたします。

町の負担割合は一概に一律でないので難しいところもあるんですけど、おおよそ6分の1ということで考えていただければいいかなと思ひます。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） 6分の1ということだと、大体652万円でございますと、100万円ちょっとが本来であれば町が負担すべきお金だつたということになると思ひますが、午前中も話があつたんですが、非常に今子供の数が減つております。何かしら行政としてもできることがあれば取り組んでいくということが必要になると思ひますけれども、例えば今回、652万円の児童手当としては減になりまして、そのうち実質町が負担すべき予算としては100万円ちょっとはあるということなんですが、例えば児童手当としてはできないけれども、この100万円を活用してほかの何かしらの子育ての支援だつたり、そういったことに使うことができるのかどうかを福祉保険課長にお尋ねしたいと思ひます。

○議長（工藤 博志議員） 福祉保険課長。

○福祉保険課長（有藤 寿満課長） この100万ちょっとのお金につきまして、この現金をほか

の事業に使うというのは基本的には難しいのでありますが、支援センターの内容だったりとか、あと子供たちが使用する公園だったりとか、そこ辺の充実というのが考えられるのかなと思いますので、今後検討していきたいと思っております。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） 当初予算でせつかく子供のためということで確保されていた予算があるのであれば、児童手当ではないにしても、先ほどおっしゃっておられた支援センターだったり公園とか、そういったところでもし使えるのであれば今後、そうした活用も考えていただければというふうに思います。

次ですけれども、議案集の53ページです。53ページの下のほうですね、地域創造支援事業補助金の945万の減について、建設課長にお尋ねしたいと思います。

この事業ですけれども、詳細といいますか、中身は以前の説明を思い出してみますと、既存店舗改修支援とチャレンジショップ開店支援の2つに分かれているかと思います。今年度のこれまでの実績についてお尋ねしたいと思います。

○議長（工藤 博志議員） 建設課長。

○建設課長（佐藤 雄二課長） お答えいたします。

ただいま質問にありました既存店舗改修支援事業、またチャレンジショップ開店支援事業ということで、今年度から要綱を制定しまして事業を始めたわけでございます。

今年度はチャレンジショップの開店支援ということで1件、既存店舗の改修支援ということで2件の要望がありまして、現在事業を行ったところであります。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） 実績としてチャレンジショップのほうに1件、既存店舗改修のほうに2件ということ、そういった実績が上がっているけれども、945万の減ということは、かなり余裕があったのかなというふうに印象を受けるんですけれども、今年度から新たな事業ということなんですが、こちらの事業についてどういった告知をこれまでされてきたのか、そのあたりを建設課長にお尋ねしたいと思います。

○議長（工藤 博志議員） 建設課長。

○建設課長（佐藤 雄二課長） この事業は、現在取り組んでおります都市再生整備計画事業の中の一環で補助事業としてやっているとございまして、この事業を計画するに当たりまして、高千穂町の商工会とか観光協会等の意見も聞きながら、その協議の中で補助率とか補助金の上限額とかを決めたところであります。

その中で観光協会とか商工会のほうからも、それぞれの商店に対して広報はさせていただいてお

りますし、うちの町の広報の中でも上げさせてもらっているところでもあります。

また、まちづくり協議会、三田井地区、岩戸地区それぞれ行っておりますけれども、その中でもいろいろ意見の交換しながら、またその中の報告、かわら版などでも周知をしたところでございます。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） 非常にいい事業だなと思いますので、引き続き告知にも力を入れて、多くの方が利用してもらったらいのかなというふうに思っています。

それと、これは確認になるんですけども、チャレンジショップ開店支援については、前の説明では令和2年度までという説明だったかと思うんですけども、それで間違いがないかどうか、建設課長にお尋ねします。

○議長（工藤 博志議員） 建設課長。

○建設課長（佐藤 雄二課長） おっしゃるとおり、今のところは先ほど申しました都市再生整備計画事業が令和2年度までの事業でやっておりますので、この事業で補助するのは令和2年度までとしております。

それ以降につきましては、また新たな事業を取り込むのか、もしくは単独費を用いてでもやるのかということについては、今後の検討課題だと考えております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） あくまで私個人の考えなんですけれども、今現状では、チャレンジショップ開店支援については令和2年度まで、一方、既存店舗改修支援については、それ以降も町単独で取り組むということになっているんですけども、あくまで私個人の考えとしまして、町の活性化を考えたときは、逆のほうがいいのかなというふうに思っています。

つまり、既存店舗の方に対してはむしろ期限をいつまでということ区切りまして、ちょっと言葉が悪いかもしれないんですけども、ちょっと尻をたたくような、そうした働きかけをしていただいて、一方、新しくやりたいと、新しく店をやりたいという方については、令和2年度以降もどんどん出てきてくれたほうが町の活性化にはなるのかなというふうに思っていますので、先ほど課長もおっしゃっておられたんですが、都市再生整備事業が終わった後も、ぜひ、こちらのチャレンジショップ開店支援を継続していただければというふうに思っております。ぜひ検討をいただいて、いい形で継続するようお願いしたいと思います。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（工藤 博志議員） 質疑なしと認めます。

これから補正予算議案7件について、討論、採決を行います。

初めに、議案第5号令和元年度高千穂町一般会計補正予算（第4号）について討論を行います。
討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（工藤 博志議員） 討論なしと認めます。

これより採決を行います。議案第5号について、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（工藤 博志議員） 起立全員であります。したがって、議案第5号は原案のとおり可決されました。

続いて、議案第6号令和元年度高千穂町国民健康保険特別会計補正予算（第4号）について討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（工藤 博志議員） 討論なしと認めます。

これより採決を行います。議案第6号について、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（工藤 博志議員） 起立全員であります。したがって、議案第6号は原案のとおり可決されました。

続いて、議案第7号令和元年度高千穂町簡易水道事業特別会計補正予算（第2号）について討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（工藤 博志議員） 討論なしと認めます。

これより採決を行います。議案第7号について、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（工藤 博志議員） 起立全員であります。したがって、議案第7号は原案のとおり可決されました。

続いて、議案第8号令和元年度高千穂町下水道事業特別会計補正予算（第4号）について討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（工藤 博志議員） 討論なしと認めます。

これより採決を行います。議案第8号について、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（工藤 博志議員） 起立全員であります。したがって、議案第8号は原案のとおり可決されました。

続いて、議案第9号令和元年度高千穂町介護保険特別会計補正予算（第4号）について討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（工藤 博志議員） 討論なしと認めます。

これより採決を行います。議案第9号について、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（工藤 博志議員） 起立全員であります。したがって、議案第9号は原案のとおり可決されました。

続いて、議案第10号令和元年度高千穂町後期高齢者医療特別会計補正予算（第3号）について討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（工藤 博志議員） 討論なしと認めます。

これより採決を行います。議案第10号について、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（工藤 博志議員） 起立全員であります。したがって、議案第10号は原案のとおり可決されました。

続いて、議案第11号令和元年度高千穂町国民健康保険病院事業会計補正予算（第2号）について討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（工藤 博志議員） 討論なしと認めます。

これより採決を行います。議案第11号について、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（工藤 博志議員） 起立全員であります。したがって、議案第11号は原案のとおり可決されました。

日程第9. 議案第1号

日程第10. 議案第2号

日程第11. 議案第3号

日程第12. 議案第4号

日程第13. 議案第12号

日程第14. 議案第13号

日程第15. 議案第14号

日程第16. 議案第15号

日程第17. 議案第16号

日程第18. 議案第17号

日程第19. 議案第18号

日程第20. 議案第19号

日程第21. 議案第20号

日程第22. 議案第22号

○議長（工藤 博志議員） 次に、日程第9、議案第1号から日程第22、議案第22号までの条例議案4件、当初予算9件、その他の議案1件、合計14件を一括議題として質疑を行います。

質疑をされる方は議会申し合わせ事項を遵守していただき、さらに答弁者を指名して質疑願います。質疑ありませんか。板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） 2番、板倉です。議案第12号令和2年度高千穂町一般会計予算について、町長にお尋ねしたいと思います。

本年度の令和元年度の予算につきましては、事実上、前町長が策定した予算だったと思います。今回の令和2年度の予算が甲斐町長として初めて策定した予算になるというふうに思っています。

そして、令和2年度の当初予算の総額ですけれども、90億9,000万ということで、一番の特徴的な予算が防災行政無線のデジタル化の整備工事で、その金額が5億7,000万ということになっています。

予算総額の90億9,000万からこの防災行政無線の5億7,000万を引きますと、85億2,000万ということになりまして、これは令和元年度の当初予算の85億円とほぼ同額になります。つまり、防災行政無線の事業以外は令和元年度とほぼ同じ予算なのかなという印象を受けました。初日の町長の施政方針で令和2年度の予算編成について、公約である健全な財政運営

と財源確保対策強化も視野に入れた予算ということで説明をされていたかと思えます。

そこで、町長にお伺いしたいと思います。今回の令和2年度の予算を、例えば仮の話なんですが、令和3年、4年、5年と継続していけば、健全な財政運営を実現できるとお考えなのか、あるいは健全な財政運営を実現するには、さらなる財政改革が必要だとお考えなのか、町長のお考えをお聞かせください。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） 御質問にお答えしたいと思います。

確かに今年度につきましては、防災行政無線のデジタル化が特に大きいということでありまして、90億を超えるということでございます。それを除いたときに85億2,000万程度ということになりますけれども、なかなか本当は新たなこともチャレンジもしていく必要もありますし、また、新たな財源の確保ということも視野に入れているところではありますけれども、なかなか当初予算に盛り込むというところでは難しい部分があったというのが実情であります。

このままの予算組みで毎年続けていった場合には、どうしても基金についても底をついていくということが考えられますので、新たな財源の確保ということについては、しっかりと今から取り組んでいきたいと思っておりますけれども、高千穂町の、もちろん本当にこの事業は必要なのかというところについては、しっかり精査をしていきたいということでありまして、令和2年度につきましては、どうしても町制施行100周年というところがありますので、ここはしっかりとこの100年に一度のチャンスでもありますので、高千穂町をしっかりとアピールできるように、そういうところについては予算を、ふるさと納税をもとにしました基金を財源としてやっていこうということで、特別に認めたというような予算もあるところであります。

歳入の確保につきましては、今、観光でしっかりと稼ぐということについて今仕組みづくりを検討しているところでありまして、そこで新たな財源を確保していくということを今考えております。

また、ふるさと納税につきましても、前年度並みにさせていただきましたけれども、ふるさと納税についてのやり方、また人員の配置、そういったところについても、今考えております。

ですので、当初では1億5,000万ということで上げさせていただきましたが、これについては、ぜひともぐっと伸ばしたいということで、新たな財源の確保をしっかりとやっていかなければ、今後数年後に、今までのやり方では健全な財政運営はできないというふうに考えております。

まあ、結論から言いますと、当初予算ではこれまでの予算編成に近い形になっておりますけれども、令和2年度の予算執行、事業執行をやっていく中で、新たな財源の確保についての新たな取り組みを補正予算等で盛り込んでいきたいということを念頭に置いた当初予算編成だということで、御理解いただきたいと思います。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） 私もほぼといたしますか、町長と同じ考えです。このままの予算編成を続けていけば、本当に危ういなというふうに危機感も感じております。

町長の答弁の中にも出てきました、基金の話が出てきましたけれども、議案集の1090ページにその基金の見込みが書かれております。財政調整基金の欄を見ましたら、30年度末については13億ありますけれども、元年度末には11億となりまして、令和2年度末には10億を切って8億7,000万になるという見込みが示されております。

去年の9月の議会につきましても、私は基金について質疑をさせていただきました。その際に、財政調整基金を最低限ここ以上は崩さないラインはあるのかという質疑をさせていただいたんですけども、そのときの町長の答弁として、あくまで感覚としてという前置きを置かれた上で、10億円は持つておく必要があるという答弁をされていたのを覚えております。

これが去年の9月ですので、わずか半年前のやりとりだったんですけども、ただ、今回の令和2年度の予算を見ますと、またこうした基金の見込みを見ますと、非常に厳しい状況にあるなということをも感じております。

再度、町長に同様の質問をしたいと思うんですけども、現時点において財政調整基金のデッドラインといたしますか、これ以上は本当に崩さないんだというラインを想定されているのかどうか、もしお考えがあればお教えてください。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） 確かに確保したいということでありましたけれども、予算組み上、このような形になってしまっているわけですけども、これ以上は減らしたくないというところが正直な今の感覚であります。

地方交付税につきましても、例えば会計年度任用職員というのも単位費用に計上されておりますので、感覚的には交付額についても、予算組みよりも上がってくるんじゃないかといった感覚もありますけども、なかなかそういったところについては決まってみないとわからないところがありますので、予算編成上は少なく見込んで計上しているところでもありますので、そのあたりも期待をしながら、基金についてはこれ以上減らさないといった形で予算のやりくりをしていきたいというふうに私は考えております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） この件については、問題意識は恐らくここにいる全員が共有していることだと思いますので、これ以上の質疑はやめますけれども、ぜひ今後とも健全な財政運

営に向けてしっかりと検討し、実行していただければと思います。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） ほかに質疑ありませんか。磯貝助夫議員。

○議員（3番 磯貝 助夫議員） 議席番号3番、磯貝です。同じく令和2年度の予算につきまして、ページの356ページ、先ほどもありました、防災無線の施設整備工事ということで5億6,000万ほど上がっております。

これちょっとお尋ねしたいんですけども、これは総務課長になりますか、総務課長のほうにお尋ねします。

アナログからデジタル化へということで、これが令和4年11月30日を期限として、もうデジタル化を完全におこななきやいけないというような状況にあらうかと思います。

今現在、高千穂町で機器の交換というのもあると思うんですけども、古い機器をまだ保有されている世帯というのは何件かあるんでしょうか。

○議長（工藤 博志議員） 総務課長。

○総務課長（石渕 敦司課長） 詳細については、特別委員会がありますので、その場でお答えをしたいと思いますけれど、五千数百世帯は古い機器を使っておりますし、令和2年度においても、新しい防災行政無線が稼働するまでは現行の戸別受信機が壊れた場合には、空白期間を生まないためにも更新を、新しいのを更新をしていかなければならないというふうに思っております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 磯貝助夫議員。

○議員（3番 磯貝 助夫議員） 率直に——簡潔に質問させていただきます。

アナログからデジタルに変わることでどう変わっていくのでしょうか。

○議長（工藤 博志議員） 総務課長。

○総務課長（石渕 敦司課長） これは現行のアナログでも高千穂町として放送はできないかというのと、そうではなく放送はできるんですけども、放送法上アナログで放送をしますと、余分な電波が——規格外の電波が多く出ているということで、国のほうでデジタルに変えて放送する領域を狭めようという方針ということであります。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 磯貝助夫議員。

○議員（3番 磯貝 助夫議員） それによってサービス等に影響が出るということはないでしょうか。

○議長（工藤 博志議員） 総務課長。

○総務課長（石渕 敦司課長） サービスというのがちょっと理解しにくいんですけど…、町の放

送自体はアナログであっても、デジタルであっても変わりはないと、基本的にですね、そういうことであります。

○議長（工藤 博志議員） 磯貝助夫議員。

○議員（3番 磯貝 助夫議員） はい、わかりました。来年度5億6,000万をかけたの工事となります。工事費と機器の交換とあとは——が入ってくると思うんですけども、整々とやっていただいて、次の時代に合ったデジタル化への工事のほうしっかりやっていただきたいと思えます。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） ほかに質疑ありませんか。安在昭則議員。

○議員（5番 安在 昭則議員） 議席番号5番、安在です。町長にお伺いしますけども、報告の中で予定の中で一応、ことしは町制施行100年ということで行事を予定されておりますけども、予算的に高千穂町史が約1,000万、それから行事に1,000万ということで2,100万ぐらいを大体予算立てておられますけども、これいつごろ大体どういう形で行政史とか発行されるのか。また、町民にわからせるためにどういう行事を考えていらっしゃるのか、そこ辺わかったらお教えいただけますか。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） まず、高千穂町勢要覧につきましては、まだ日程調整中ではありますが、秋10月末から11月ぐらいになろうかと今検討していますけれども、記念式典を開催したいと考えております。それに間に合う形で町勢要覧をまとめたというふうに思っております。

また、町史につきましては、その時点ではなかなか間に合わすことは難しいのかなと思いますので、令和2年度中に発行ということを目指して高千穂町史の発行をまとめていきたいというふうに思っております。

また、記念イベントにつきましては、2,100万に上がっている中で言いますと、まず報告を申しあげました中では、4月26日がオリンピックの聖火リレーですけども、それと6月の12日だったかと思うんですけども、福岡ソフトバンクホークスの福岡ドームでの試合を一日「高千穂デー」にさせていただくということでもあります。これにつきましては、試合、会場の中で物販といいますか、高千穂の特産品なんかも販売できますし、高千穂のPRを全面的にドームの中の全てのスペースといいますか、そういったのぼり旗とかもふんだんに立てていいよということでもありますので、農協さんであったり、いろんな商工会であったり、いろんな団体に御協力をいただきまして、一日高千穂デーにするということでもあります。

また、4万人のお客様が来られると思う——ぐらいは収容できるということですので、そういった皆さんにビジョンを使って、また試合前の始球式も高千穂町でできる。また、その前に高千

穂のPRも私も多分させていただけるというふうに見込んでおりますし、いろんな場面場面で高千穂町前面に出してもらえるとということでございますし、高千穂町の席も200席ほど、もうそれに料金に含まれるというようなことでありますので、町民の皆さんに広く参加をしていただく、そういったことで考えております。

また、7月5日の日にNHKのど自慢開催をさせていただきます。

そして、ソラシドエアにつきましては、できるだけ早い段階でことし1年高千穂仕様の便が飛びますよといったセレモニーを早い段階で計画をしたいということで、ソラシドエアさんとは、予算が通らないと先に進めないことがありますので、できるだけ早い段階で準備をして、ポケットに高千穂のPRできるパンフレット、特産品のPR、ふるさと納税のPRも含めてですけども、そういったことを入れていくということで、積極的に展開をしていきたいというふうに考えております。

スケジュール感につきましては、そのようなイメージであります。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 安在昭則議員。

○議員（5番 安在 昭則議員） 同じように都農町がことし100周年ということで、ここは予算をかなり持つておるものですから、一昨年あたりからもう——昨年か、のぐらいから旗をつかって100周年ということで、大々的に庁舎の周りとかを旗とか上げていますけども、できたらそこまでの予算は使わなくても、高千穂も早目に町民にわかるように、この庁舎なりにやっぱり100周年だということがわかるように何らかの形を上げていかないと、本当にことし100周年ってわかっている人が町内にもほとんど今の段階ではまだ余りないんじゃないかなと思いますので、そこあたりをちょっとPRしていただいて、できるだけ、せっかく高千穂の観光客も来るわけですから、高千穂町は100周年だというのがわかるようにしていただくとありがたいなと思っておりますので、そのところは今後ともどうぞよろしく願いいたします。

終わります。

○議長（工藤 博志議員） ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（工藤 博志議員） 質疑なしと認めます。

これから、ただいま質疑の終わりました議案の委員会付託を行います。

お諮りします。議案第12号については、お手元に配付の令和2年度一般会計予算審査特別委員会の設置のとおり、議長を除く12名で構成する特別委員会を設置し、これに付託し、議案第12号を除く議案13件については、お手元に配付の委員会付託一覧表のとおり、所管の常任委員会に付託して審査することにしたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（工藤 博志議員） 異議なしと認めます。よって、議案第12号は、令和2年度一般会計予算特別委員会を設置し、これに付託して審査することとし、議案第12号を除く議案13件については、委員会各付託一覧表のとおり、所管の常任委員会に付託して審査することに決定しました。

ただいま設置されました令和2年度一般会計予算審査特別委員会には、委員会条例第8条の規定により、正・副委員長を置き、委員会において互選することになっています。

したがいまして、次の休憩中に年長委員において委員会を開き、正・副委員長の互選を行い、その結果を報告願います。

ここで暫時休憩します。

午後2時03分休憩

.....
午後2時07分再開

○議長（工藤 博志議員） 休憩前に続き会議を開きます。

令和2年度一般会計予算審査特別委員会における正・副委員長が決定しましたので、その結果を報告します。委員長に坂本弘明議員、副委員長に磯貝助夫議員がそれぞれ選任されました。

.....
○議長（工藤 博志議員） 以上をもちまして、本日の日程は全て終了いたしましたので、これにて散会します。

○事務局長（甲斐 順生事務局長） 御起立をお願いします。一同、礼。

〔起立・礼〕

午後2時08分散会
.....